

富士宮市文化財調査報告書 第9集

黒田向林遺跡

1986

富士宮市教育委員会

富士宮市文化財調査報告書 第9集

黒田向林遺跡

1986

富士宮市教育委員会

序

移り変りが激しく、多様な価値感にあふれる現代社会において、豊かな人間性と限りない可能性をもとめて、新たな地域文化を創造しようとする国民の努力はめざましいものがあります。

こうしたなかで、われわれの身近にある文化財、わけてもすべての先人がこの国土と係ってきた軌跡への高まりは著しいものがあります。各地域における発掘調査の成果が、広く国民の注目を集め、人々の大きな関心と期待のもとにおかれる状況は、かつてみることのできなかったことであります。

人類文明のあけぼのについての経過はいまださだかではありません。その問題を解明するためには、発掘調査という地味な成果を除々に積み重ねる以外に方法はありません。こうして遅々ではありますが明らかにされつつある郷土の歴史は、単に学術的意義のみならず、今後の市民生活のなかに根付いた文化行政として大切に生かされていくべきであろうことに大きな意義を持たなければならないと思います。

このたびの駿河動業開発宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査につきましても、現状保存を前提として、関係諸機関と慎重な協議を重ねてまいりましたが、どうしても現状保存が不可能という結論に達しました。そこで、関係機関と地元関係者および駿河動業開発の御理解と御協力のもとに、万全の調査をもって記録保存という形で後世に伝えることとし、調査に至ったものです。

ここに向林遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書を刊行して多くの方々の御批判と御指導を承るとともに最後になりましたが、本書の刊行に埋蔵文化財の意義を深く理解され、本調査と本書の刊行にあたって費用を御負担くださり格段の御配慮を賜りました駿河動業開発の関係各位、また調査の完遂に御指導いただきました静岡県教育委員会、地元関係者の皆様の御尽力に対しまして深い感謝の意を表します。

昭和61年3月

富士宮市教育長 塩川 隆 司

例 言

- 1 本書は昭和60年1月23日、静岡県富士宮市黒田字向林1244番地他に新発見された『黒田向林（くろだむこうばやし）遺跡』の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は静岡県富士市依田原新田160番地-3 駿河勸業開発 代表室伏俣男氏による宅地造成工事に伴うもので、同社より昭和60年3月6日に調査依頼を受けた富士宮市教育委員会が実施したものである。
- 3 発掘調査は昭和60年3月25日より4月26日まで実施され、以後、整理作業、報告書刊行作業にはいった。

調査体制は以下のとおりである。

富士宮市教育委員会

教育長 塩川隆司 教育次長 鈴木康宜

社会教育課長 遠藤伸一郎 課長補佐 清水敏靖

文化振興係長 赤池敏和 主事 渡辺孝秀（～3月31日） 主事 佐野克己（4月1日～） 技師 馬飼野行雄、渡井一信 学芸員 伊藤昌光 臨時事務員 芦川美智子、渡辺麻里

作業員 望月秀雄、勝亦英雄、土井満里子 渡辺房子、吉野ふみ子、二間瀬篤子、木内俊子、田村陽子、大平美奈子、中瀬小夜子、望月薫

室内整理員 辰己光世

なお、他に社会教育係、公民館、図書館、青少年対策室の職員の援助を受けた。

- 4 発掘調査の担当は馬飼野行雄があたり、渡井一信、伊藤昌光の両名が補佐した。
- 5 発掘調査資料の整理は馬飼野が主体として行い、渡井、芦川、渡辺麻、辰己の協力を得た。具体的には土器分野を馬飼野、渡辺麻で、石器分野を渡井、芦川が、したがって、実測・トレースもそれらによっている。
- 6 写真撮影は遺構を伊藤、遺物を馬飼野があたった。
- 7 本書の執筆、編集は全て馬飼野があたった。
- 8 地形図、遺構実測図に記する高度は全て海拔高度をもって示している。
- 9 第1、3図に用いた地形図は、第1図が昭和45年2月、第3図が昭和51年10月に、それぞれ建設省国土地理院長の承認を得て、富士宮市役所が調製した富士宮市都市計画図を使用している。
- 10 遺構実測図の等高線は第6層（礫群検出面）の埋没等高線である。また、ドットは焼土を表現している。
- 11 土器拓影図は縮尺2分の1を基本としているが、復原実測が可能であった土器実測図は縮尺3分の1で掲載されている。それには図中に縮尺が示される。石器もその法量が多岐にわた

るため、3分の2～2分の1、4分の1と、それぞれの図中に縮尺を示している。

- 12 土器観察表に記される胎土の略語は以下のとおりである。

大…大粒 細…細粒 多…多量 少…少量 微…微量

長…長石 英…石英 雲…黒雲母 金雲…金雲母 織…繊維 砂…角閃石・輝石・かんらん石等を混えるもの 砂礫…粒度が粗くなる。

- 13 土器観察表に記される色調は、破片面積のもっともひろい範囲を専有する色合である。新版標準土色帖 農林省農林水産技術会議事務局監修で補って判断している。
- 14 印刷、出版に関する事務は富士宮市教育委員会社会教育課文化振興係が当たった。
- 15 発掘調査に関する全ての資料は富士宮市教育委員会で保管している。

目次

1	遺跡の位置と環境	1
2	発掘調査の経過	1
3	遺跡の占地と土層	2
4	発見された遺構と遺物	3
5	発掘調査の総括	8

図版目次

図-1	遺跡位置図	
図-2	富士西南麓の地質図、断面図	図-25 ST-3出土土器拓影図
図-3	周辺地形図	図-26 石鏃実測図-1
図-4	発掘調査区域図	図-27 石鏃実測図-2
図-5	遺構実測図	図-28 石鏃実測図-3
図-6	第I群土器拓影図-1	図-29 石皿実測図
図-7	第I群土器拓影図-2	図-30 磨石実測図
図-8	第I群土器拓影図-3	図-31 磨石・蔽石実測図
図-9	第I群土器拓影図-4	図-32 蔽石実測図
図-10	第I群土器拓影図-5	図-33 その他の石器実測図
図-11	第I群土器拓影図-6	
図-12	第I群土器拓影図-7	図版-1 調査概要
図-13	第II群土器拓影図-1	図版-2 第I群土器
図-14	第II群土器拓影図-2	図版-3 第I群土器
図-15	第II群土器拓影図-3	図版-4 第I群土器
図-16	第III群土器拓影図-1	図版-5 第II群土器
図-17	第III群土器拓影図-2	図版-6 第III群土器
図-18	第III群土器拓影図-3	図版-7 第III群土器、第IV群土器
図-19	第IV群土器拓影図-1	
図-20	第IV群土器拓影図-2	
図-21	第V群土器拓影図	
図-22	第VI群土器拓影図-1	
図-23	第VI群土器拓影図-2	
図-24	ST-1・2出土土器拓影図	

1. 遺跡の位置と環境

黒田向林遺跡は静岡県富士宮市黒田字向林1244番地他2筆に所在する(図-1)。国鉄身延線富士宮駅より県道富士宮由比線を南進して1.5km程の通称八景台と呼ばれる台地の取っ付きで、眼下には裾野にひろがる市街地から、さらに富士山を正面に仰ぎ見る景勝の地で、近年、急速に宅地化が進んでいる。

その台地はおおきく星山丘陵と称され、市の南西域を羽附丘陵から明星丘陵に接続している。それは富士山より下る山麓地形が、大宮断層によって独立されて成り、それを流路とする潤井川と、富士川にはさまれている。最高標高は230m余、均して150~170m程の緩かな丘陵で、北東から南西方向にはする数条の侵蝕谷に略平坦な面を残している。その北東方向に開口する一支谷の左岸に本遺跡は位置する。

本遺跡の地質学的基盤は古富士集塊質泥流である。富士山の成立が小御岳、古富士、新富士を経たことは周知されて、新富士溶岩流が微高地、または断層運動で及ばなかったためである(図-2)。この古富士泥流が著しく不透水性で、新富士溶岩が透水性に富むことから、旧河床が地下水脈となって湧水を引き出し、それに伴う小谷が鋸状の地形を連続させて格好の生活条件を生み出したらしい。

このことは遺跡の占地からも容易に知れて、とくに縄文時代早期以前に傾向がつよいのは、生活需給の貧弱さが短絡な占地につながったのか。いずれにしても移動性に富む生産活動ではひろい居住域は必要とせず、居住域と生活領域が分離したままでもよかつたはずである。そして、それを共有して、はっきりと居住の空間を集落として意識するまでは中期まで待たなければならないであろう。その時、自ずから遺跡は広域な生活圈を保有して歴代遺跡に発展している。

2. 発掘調査の経過

縄文時代早期の遺跡はひろい居住域を持たないで、小谷を望む緩斜面に占地することが一般らしい。したがって、そうした地域は開墾が及ばず、周知されないでいる場合が多いようである。事実、本遺跡の場合も事前の確認踏査によって発見された次第である。

発掘調査はまず、簡易広場の整地を免れた「L」字状部分に確認トレンチを設定した。その結果、南側には遺跡は及んでおらず、西側部分の南北35m、東西12m、面積約400㎡が対象となった。実際の調査は西側の石垣、法面側を避けて、30×10m、約300㎡を実施した(図-4)。

発掘調査は5mグリッドを基本にして進めることとし、その呼称は西から東へA・B・Cのアルファベット、北から南へ1・2・3の数字列として、それを磁北とした。したがって、具体的にはA-1、B-1グリッドと呼称し、調査区にはA・B-1~6の大略12グリッドが設

定された。出土遺物は各グリッド毎、土層の変化に応じて、上・中・下層として上げたが、結果は遺跡が急勾配すぎること、明瞭な効果を得るまでにはいかなかったように思う。これは本教育委員会が1982、83年に実施した市内小泉の代官屋敷遺跡、若宮遺跡にも指摘されて、ひろい発掘域のなかでの平面分布の方が有効であるかも知れない。

遺物包含層発掘後、A・B-1・2グリッド辺に礫群、土壌（ST）群が検出され、精査、実測、写真撮影等、一連の作業にしたがった。

さらにA・B-3グリッド以下の精査と、下層を追求したが遺物、遺構の確認はなく、発掘調査を終了した。

以後、整理作業にはいり、昭和61年3月31日の本書を刊行した。

3. 遺跡の占地と土層

黒田向林遺跡は星山丘陵に発達する侵蝕谷の谷頭部左岸に占地して、もうすぐ分水嶺である。同丘陵の遺跡中、もっとも比高をもって、対峙すれば富士川河岸の沼久保板上遺跡、星山谷を相対して南部谷戸、月の輪遺跡群、さらに奥山地遺跡など、地域有数の縄文時代早期遺跡をみることになる。

詳細には西側に位置する海拔162.2mの小峰から最大勾配36度、以下12度程で下る北東斜面の海拔150~155m間で、それより略平坦面には確認がないから、20m×50m、面積約1,000㎡の細長い包蔵範囲が予想される。南側は緩やかに上がって、日照の問題はない。

このような占地の仕方、つまり背後に「壁」を控え、前庭部を居住域とするのは洞穴、あるいは岩陰遺跡など、旧態的な構造が意識されているのか、本地域にはしばしば同様の構造がみられるのである。

したがってその占地における土層堆積は必然的に流動性に富むであろうし、事実、第5・6層などの明色土層内で暗色堆積土が鎖状に連続している個所も観察される。ここでは大略、以下に分層した（図-4）。

1 表土

黒色有機質土からなる表土層で、上半部は耕作土となる。イモ穴や耕作が及んで乱れている。下半部には小粒で少量のスコリア粒が点在している。

2 大沢ラビリ層

緻密なスコリア粒が堅固なマサ層をつくる、いわゆる富士マサである。乾燥すると白っぽく変色する。その堆積時期は約2,700年前とされる。

3 黒褐色土層Ⅰ

上層の影響でスコリア粒を若干含み、粘性に欠ける。

4 黒褐色土層Ⅱ

粘性を増し、スコリア粒が減る。上層とともに黒ボクと称されて、混入する千居ラビリ（赤田貫）より、B・P3,500年前後が考えられている。

5 褐色土層Ⅰ

本地域で縄文時代の鍵層となる栗色土層に対応されようが、連続した堆積が認められないこともあり、上記を呼称した。栗色土層はB・P6,000年位前の堆積であるらしい。

本遺跡では除々に遺物の包含をみるようになる。

6 褐色土層Ⅱ

上層より暗色を増し、下部の大粒スコリアを含有する。したがって下層の影響が多いといえる。

下層の漸移面が本遺跡の遺構検出面である。

7 暗褐色土層

本来なら富士黒土層に対応されようが、上下層の混入で明るさを増している。富士山東麓ではその堆積時期はB・P10,000～8,000年位前とされる。なお、富士黒土層は分布に制限があるらしく、沼久保板上遺跡では確認がない。

8 赤褐色土層

大粒のスコリアを多量に含有して赤色にちかい。沼津市休場層の最上部に対比されて、洪積世最末期～沖積世初頭（B・P10,000年位前）、旧石器時代包含層とされる。

基本的には本地域に大過ないが、第7層に対比されるよう富士黒土層の堆積は星山、明星山丘陵に少ないらしい。富士根地域ではそれを縄文時代早期前半の包含層と理解しているから、本遺跡の出土遺物との前後関係も矛盾することはない。

4. 発見された遺構と遺物

a. 遺構

遺跡は縄文時代早期後半の時間中のなかで営まれて、遺構はA-1・2グリッド辺に礫群と土壌（ST）3基が集中していた。一帯の勾配は16度前後で正立はおぼつかない（図-5）。

ST-1

A-3ポイントの北西、調査区境に接して2分の1程が、南北270cm、東西70cmで観察された。断面は25cmの深さの皿状で南壁が直立し、東～北壁は緩かである。上部はおおくが拳大の礫61個（現状）で覆われて、礫間には50×40cmの範囲で焼土が、埋土にはカーボン粒が目立つ。火に関する事象や、その構造は竪穴の要素も窺えなくはない。

ST-2

A-1グリッド中央南に位置する。当初は礫群、いわゆる集、配石で追求して南北800cm、東西550cm、構成礫241個として捉えた。20～30の大形礫も見受けるが、およそ拳大で成り、

北側には10個程で組まれた2単位の集石行為も認められる。集石は本土墳域にもっとも集中して105個を数え、土壌は長軸N-5^o-W、規模は155×110cmの卵形で、12.3cmの浅い皿状の断面をもつ。埋土にはカーボン粒も含まらしく、それより5m程下方に焼土跡も認められる。

ST-3

A-3ポイントより調査区外にのびる。形状はおよそ不整形で南北165cm、東西170cm程で観察された。断面は碗状にちかく75cmと深く、墳底には90×80cm、深さ15cm程の不整形円形坑があく。埋土には大粒のカーボンが含まれて、前述遺構と共通するが、集石を伴っていない。坑内からは遺物の出土をみて何らかの遺構の存在は予想されものの、南壁をロームマウンド遺構とも、風倒木痕ともいわれる不明造物に乱されて、不確実な要素が多い。

b. 遺物

遺物は縄文時代早期後半の土器、石器類である。遺構分布域におよそ4分の3が集中して、とくにA-2グリッドでは5分の1も占める。

土器 (図-6~26)

土器は表採資料も含めて、破片総数3,284点を数える(ただし微細片、及び調査、水洗時に粉化したものは含めない)。このうち129点を遺構に伴うものと認めている。

それらは以下の第I~VI群に分類される(表-1)。

第I群 燃糸文が施される土器 (図-6~12)

A類 縦方向に施されるもの

- 1種 節、条間とも一般なもの
- 2種 条間が密なもの
- 3種 節、条間が細かいもの
- 4種 節、条間が大まかなもの

B類 斜方向に施されるもの

C類 横方向に施されるもの

D類 異方向に施されるもの

- 1種 口縁部に施されるもの
- 2種 斜格子状に施されるもの
- 3種 乱走して施されるもの

E類 格子目に施されるもの

I群A類1種が圧倒して、I群E類が次ぐ。他は一般でない。口縁部はI群D類2種(184)が波状以外はすべて平縁である。それには口唇部に文様帯をもつほうが多く、燃糸(152・183)、爪形状工具の刺突(153)もみるが、丸棒状工具の側面押圧がもっとも一般である。そして螺旋状凹線はII群押型文が施される土器のそれと同様である。胴部の施文はとくにI群

A類1種が断続的な施文を特徴としている。またI群E類の格子目文様構成は、II群D類に相對する指摘は充分にされるであろうし、胎土は大粒の長石、石英、纖維を含んでII群に極くちかい。

第II群 押型文が施される土器(図-13~15)

- A類 整然とした楕円文が施されるもの
- B類 雑然とした楕円文が施されるもの
- C類 粗大な楕・円形文が施されるもの
- D類 略菱形文(格子目)が施されるもの

文様が楕円文から略菱形文に限られ、裏面の螺旋状凹線(溝状斜線文)がおよそ5分の1に認められるなど、和歌山県高山寺式土器の特徴を充分に備えている。大形文様構成をとるものが卓越するから最終末期にあたろう。螺旋状凹線は口唇部から口縁裏面で消失するものと、裏面全周を螺旋するものがあり、前者が大形文様構成をとることが多い。波状口縁はII群C類(222)以外なく、いずれも平縁で、爪形状工具の刺突(210・224)はI群縋糸文が施される土器に共通する。胎土は大粒の長石、石英、さらに多量の纖維を含むことが多く、非常に粗い。

第III群 沈線文が施される土器(図-16~18)

A類 沈線文が施されるもの

- 1種 細沈線によるもの
- 2種 太沈線によるもの
- 3種 沈線によるもの
 - a 平行沈線
 - b 横・縦・斜を集合するもの
 - c 格子を意図するもの
 - d 曲線を併用するもの
- 4種 細沈線と太沈線によるもの

B類 沈線文と刺突文が施されるもの

- 1種 列点によるもの
- 2種 短線によるもの
 - a 沈線に平行するもの
 - b 沈線に斜行するもの(「八」字状など)
- 3種 爪形によるもの

C類 貝殻文が施されるもの

- 1種 腹縁圧痕によるもの
- 2種 沈線と腹縁圧痕によるもの

D類 上記を集合してなるもの

- 1種 口唇部に文様帯をもつもの

2種 隆帯や「こぶ」をもつもの

E類 沈線文と縄文が施されるもの

沈線文系土器群は文様要素が継続していくこともあり、それを画するに個々で流動的である指摘がされ、なお再検討が云々されている。ここでは一般にされる三戸、田戸下・上層式にしたがい、より古式な文様要素から序列している。とくに前半が不安されるが、沼津市長井崎遺跡で三戸式土器をみらしく、さらに田戸上層式土器(Ⅲ群D・E類)の特徴的な肥厚した口縁部から下だる文様要素がⅢ群B・C類中にも波及しているから、それらを除けば田戸下層式が判断されるかも知れない。胎土は緻密で、精選された細砂粒を含有して、赤褐色など明色を呈することが一般で、繊維はおよそないでいる。

第IV群 条痕文が施される土器(図-19・20)

A類 条痕文が施されるもの

1種 条線状の文様区画によるもの

2種 一般な条痕によるもの

B類 擦痕状となるもの

C類 擬条痕となるもの

D類 結条体圧痕文が施されるもの

関東の条痕文系土器群、いわゆる広義の茅山系土器群を対称にしているのではない。むしろIV群A・B類はⅢ群沈線文の施される土器にちかい胎土、色調をもっている。Ⅲ群C類は丸棒に輪状の凸体を造り出した、擬条痕とでもいうべき押型文である。その効果はI群燃糸文の施される土器の断続的な施文構成に通ずるように思う。またIV群D類は結条体圧痕から子母口式土器も予想されるが、I群A類1種(104)の燃糸文中の圧痕と断絶が可能であろうか疑問で、I群の延長にとらえるべきであったかもしれない。

第V群 縄文が施される土器(図-21)

1種 無節斜縄文によるもの

2種 単節斜縄文によるもの

V群2種が大半でLR縄文が多い。口縁部は波状(506)もみるが、平縁が一般らしく、口唇部が縄文(508)や、角棒状工具の刺突(509)以外は丸頭、尖頭形となる。胎土には金粟母、細砂粒などを含んで、Ⅲ群沈線文が施されている土器に類似する。とくにⅢ群E類(375)の沈線文と縄文の施される土器の関連が追求されよう。

第VI群 調整時の擦痕以外は意識的な文様が施されない土器(図-22・23)

1種 胎土が粗なもの

2種 胎土が密なもの

VI群1種がI、II群の燃糸文、押型文が施される土器、VI群2種がⅢ群沈線文が施される土器に、それぞれちかい胎土をもっている。VI群1種が大半を占め、口縁部が多いから本来より

無文土器であって、口唇部施文はⅠ群摺糸文、Ⅱ群押型文の施される土器に共通して、その共伴は十分に指摘される。反面、Ⅵ群2種はそれが皆無で、Ⅲ群沈線文が施される土器の胴部下半の無文部である予想がされる。底部は丸底から尖底へと胎土がしだいに密になっていく。

遺構内出土土器(図-24・25)

遺構間の前後関係は無論とらえられずにいるが、それぞれ、およそ均衡した出土率をもっていて、また、包含層出土土器の割合とも変化ないでいる(表-2)。換言すれば、この出土状況が、本地域における縄文時代早期後半の土器の有り方なのかもしれない。

石 鏝(図-26~28)

石鏝は164点をみる。完形(略)は61点で、基部、とくに逆斜を欠損するものが多い。石材は黒曜石が148点を占め圧倒する。他は頁岩、チャート、水晶などである。それらは基部の形状によって大略3類にできる。

Ⅰ類 扶込をもたないもの(平基式)

Ⅱ類 扶込が「 \cap 」状となるもの(凹基式)

Ⅲ類 扶込が「 Ω 」状となるもの(凹基式)

基部の明確な146点中、Ⅰ類12点、Ⅱ類64点・Ⅲ類70点に分けられる。Ⅲ類にいわゆる鏝形鏝が相当数認められて早期色を濃くするが、若宮遺跡で特徴の「人」字状鏝、「へ」字状のいわゆる三角鏝が皆無であり、その前後関係も指摘されつつある。

石 皿(図-29)

石皿は全て欠損して17点をみる。しかもその度合は著しく、法量さえ予想もされないでいる。したがって残存する磨面では曲面、とくに平面の判断が困難で、あえていうなら2点に平坦磨面を認められるか。いずれにしろ平坦磨面をもつ石皿片が少ないことは確かである。石材は12点が砂岩で、他は安山岩、玄武岩である。これは通例の選材と逆で、砂岩がひび割れ易いため残存結果となろう。

磨 石(図-30・31)

磨石が敷き、さらに凹みを併用することは知れて、およそ完形でいることは少ない。本資料も47点中、完形は2点でそれもひび割れが著しい。石材は図示される24点中、13点が砂岩で、他は安山岩、花崗岩、凝灰岩である。それらは使用磨面によって大略2類される。

Ⅰ類 曲面的磨面をもつもの

Ⅱ類 平坦的磨面をもつもの

Ⅰ類37点、Ⅱ類16点で、Ⅰ類の一般的磨石が過半数を占める。これは石皿の有り方にも追隨する。Ⅱ類は円礫の側面が平坦加工された「石輪」状のものが目立って、三角柱状の自然礫の稜を平坦使用面とする、いわゆる特殊磨石を上回っている。

敲 石(図-31・32)

磨石にも増して、その機能上およそ完形でいることがなく、33点中、3点が接合資料で完形

は1点である。石材は図示される20点中、17点が砂岩で、他は安山岩である。それらは使用方法によって大略2類される。

I類 側面敲打するもの

II類 端部敲打するもの

I類12点、II類21点である。I類の柔い連続的な敲打は磨石にも併用されるものである。小形敲石(4・6)は対称物も自ずから小形化・軟化するであろうが初見で注目される。II類は縦方向の強い瞬間的敲打、いわゆる「石槌」的使用が予想されて、破損度がかたい。7・8は形状からII類に含まれるが、その使用痕は4・6同様の柔い敲打によるものである。

石 斧(図-33)

打製3点を見る。1は換形、直刃となって直刃斧、あるいはトランシエ様石器様の形状をとるが、刃部は直刃でなく鈍い片刃である。2は略短冊形の小形石斧で、法量的には「筈」状石器の範ちゅうにある。3はなおそれにちかい。

石 匙(図-33)

いずれも横型で4点を見る。うち2点(3・4)は大形粗製石匙で、それは構刃型石器、あるいは大形削器にも通じよう。1は明瞭な「つまみ」が作出されるが、刃部の3分の1を欠く。2は略三角形素材に刃部と簡単な「つまみ」が作出され、3・4はいずれも三角形の第1次剥片の底辺に刃部を作出しているだけである。

スクレイパー類(図-33)

黒曜石製のいわゆるサイド・スクレイパー3点と、硬砂岩製の搔器、頁岩・砂岩製の大形削器2点の計6点を見る。後者はいずれも第1次剥片の鋭い剥離面に刃部を作出して、大形粗製石匙の構造と同様である。

石 錐(図-33)

2点を見る。黒曜石製の湾曲気味の剥片を二等辺三角形に加工調整して錐部を作出している。したがって頭部との明瞭な区別はない。2は剥片の尖出部を磨製して平坦に保っている。

残 核(図-33)

本遺跡では礮器に扱えない、刃部の作出が意図されない残核が17点認められた。むろん秩序だった剥離は盾取されないが、頁岩、硬砂岩で占められて、石斧、石匙などの選材と同様である。しかし、縄文時代の石核は不明瞭な部分が多く、今後におきたい。

5. 発掘調査の総括

以上の成果をもって黒田向林遺跡の調査を終了した。ここでは2・3の問題点を抽出してむすびとしたい。

集石について

集、配石と土壌は縄文時代の一般的遺構であるが、その性格はいまだ流動的で、とくに早期には不明な部分も多い。これについては炉穴や焼石を内包する集石土壌（集雑炉）に関連した性格が予想されて、一般化されつつあるが、しかし明瞭な焼石行為が認められない礫群の存在も確かである。それは比較的散在（ひろい範囲）してなり、土壌は浅く皿状で、境内には若干の焼土、炭化粒が混入するものの、周囲には炉穴、焼土跡などの明確な燃焼施設をみないことで共通している。昨年、本遺跡と対峙する沼久保板上遺跡でこの状況をもって、列状配石、集石、環状配石が発見されるに至っている。これにしたがえば縄文時代早期にすでに『意図された配石』が発生していたことになるが、今後の類例の増加が期待される。

土器について

近年、発掘調査の増加に伴って縄文時代早期後半の様相も徐々に整理されつつあり、それをまとめると沈線文系土器群（？→田戸下層式→田戸上層式）と押型文系土器群（？→細久保式→高山寺式）の並行関係が肯定されて、これを疑うことはまずない。そこで問題とされるのは燃糸文系土器である。本地域では以前より関東編年に対応されないことが知れて、その解明が急務となっている。それには若宮期→？→代官屋敷期→星山期（沼久保板上遺跡、奥山地遺跡、黒田向林遺跡）の大略的序列のなかに、この事実を積み重ねる以外なく、ここに本遺跡の燃糸文の施される土器の特徴を記して解明の一端としたい。

（1）時期は高山寺式土器の終末にあたり、並行すれば田戸上層式期である。

（2）器形は口縁部が緩く外反する砲弾状尖底を一般とするらしく、口唇部には丸棒状工具の連続、斜連続の側面押圧、さらには螺旋状凹線に発達する例もある。他に爪形状工具の刺突（刻目）もあって、口唇部施文例が非常に豊富にたっている。

（3）文様は縦方向が一般で、口縁部より底部にむけて断続的に施文されるため、空白部を多く有する例が圧倒して、横、斜方向、交差（網目状？）施文例は極く僅かである。格子目燃糸文土器の出現はいうまでもない。

（4）胎土は多量の長石・石英、（砂粒）、繊維を含んで、非常に粗く、高山寺式土器のそれに極くちかい。

石器について

石器のおよそ4割が石鏃で占められる。若宮遺跡の8割には及びようもないが、それでも他を圧倒して「弓矢」の発展段階にある縄文時代早期の石器群の様相を如実に示している。しかし、それに次ぐ磨石、敲石、石皿などの顕著な有り方は、やはり植物食調理活動の顕著な反映でもあり、安定した生産活動とある程度の定住生活が行われたことを意味しよう。

参考文献

日本道路公団名古屋建設局、静岡県教育委員会、富士宮市教育委員会 1982 『西富士道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（I）代官屋敷遺跡』 富士宮市文化財調査報告書第5

集 同上 1983 「西富士道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅱ)若宮遺跡」 富士宮市文化財調査報告書第6集

富士宮市教育委員会 1985 「沼久保坂上遺跡」 富士宮市文化財調査報告書第7集

赤星直忠 1935 「横須賀市田戸先史時代遺跡調査」『史前学雑誌』第7巻第6号

浦 宏 1936 「紀伊国高山寺貝塚発掘報告」『考古学』第10巻第7号

小野真一 1975 「富士周辺における縄文早期の土器」『ゆずり葉—熱海市ゆずり葉遺跡発掘調査報告書』 加藤学園考古学研究所

吉田格、横山悦枝 1976 「伊豆・峠遺跡—縄文早期の出土遺物—」『考古学ノート』第6号

山下勝年他 1980 「先苅貝塚」南知多町教育委員会

沼津市教育委員会 1980 「長井崎遺跡発掘調査報告書」 沼津市文化財調査報告第18集

表-1 土器分類表

群 類	A	B	C	D	E	計
I	1 2 3 4種 777 40 23 15	8	9	14	250	1, 136
II	4 7	15 0	16 8	69	—	434
III	1 2 3 4種 21 53 74 26	1 2 3種 22 33 7	1 2種 7 39	1 2種 13 16	1	312
IV	1 2種 9 31	2 5	2 3	8	—	96
V	1 2種 4 101	—	—	—	—	105
VI	1 2種 1089 112	—	—	—	—	1, 201

表-2 遺構内出土土器分類表

遺構	I 群類種 A				II ABCD				III A B C D E					IV A B C D			V	VI	計				
	1	2	3	4	A	B	C	D	A	B	C	D	E	A	B	C	D	1		2			
ST-1	4	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	36	
ST-2	5	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13	39
ST-3	3	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	29	54

圖 版

遺跡地名表

番号	整理No	遺跡名	所在地	時代	地 形	地 目	遺跡の状況・遺構・遺物
76	J-51 H-43	哉間神社	大宮 元城町	縄文古墳	台地上	山林・宅地 社寺境内	土器(縄文早期)・土師器・有孔石鏝
77	Y-3 H-35	羽衣町	大宮 羽衣町	弥生古墳	平地 台地端部	宅 工場 厩	土器(弥生後期)・土師器
82	H-36	西町	大宮 西町	古墳	台地上	畑・宅地	土師器
83	H-40	貴船小学校	大宮	奈良平安	平地	宅地	土師器
84	J-70 H-59	甲石	大中里甲石	縄文古墳		畑・宅地	土器(縄文中～後期)・土師器
85	J-47 H-37	福伝	大中里福伝	縄文古墳	台地上	畑	土器(縄文後期)・土師器
86	J-48 H-38	大中里坂下	大中里 坂下 福伝	縄文古墳	台地上	水田・畑・宅地	土器(縄文中・後期)・土師器
91	J-77 H-65	上の原	上の原 安居山中 大畑	縄文古墳	台地上	畑・工場 厩	土器(縄文中期)・土師器
96	S-3 J-54 H-46	沼久保坂上 (大場山)	沼久保坂上	先土 縄文古墳	台地端部 台地上	山林・畑・宅地	剥片・土器(縄文早・中・後期) 打製石斧・石鏝・石匙・土師器
101	J-78	明星山	星山明星山	縄文	台地上	畑	土器
102	J-40 H-28	坊地上	黒田坊地	縄文古墳	台地上	畑・宅地	土器(縄文早・中期)・土師器
103	J-53 H-64	倭文神社	星山	縄文古墳	台地上	山林・水田・畑 社寺境内	土器(縄文早期)・石鏝・石匙・凹石 土師器・須恵器・磨製石鏝
104	J-43 H-31	野中中村	黒田中村 (野中)	縄文古墳	台地上	畑・宅地	土器(縄文中期)・土師器
105	J-46 H-34	泉	黒田泉 (野中)	縄文古墳	台地上	水田・畑・宅地	土器(縄文後期)石鏝 打製石斧・土師器
106	S-2 J-41 H-30 K-20	南部谷戸	黒田南部谷戸	先土 器 縄文古墳	台地端部 台地上	畑・宅地	有舌尖頭器・土器(縄文早・前・中期) 土師器・勾玉・有孔石鏝・ガラス玉
107	S-1 J-39 H-25	月の輪平	黒田月の輪	先土 縄文古墳	台地上	山林	土器(縄文早期)・ガラス玉・有舌尖 頭器・土師器
108	J-45 H-33	滝戸	野中滝戸	縄文古墳	台地上	畑・宅地	土器(縄文早・中・後・晩期)・石 石鏝・石鏝・石鏝・土偶・打製石斧・ 硬玉製勾玉・土師器
109	J-44 H-32	野中向原	野中向原	縄文古墳	山 服	畑・宅地	土器(縄文中～後期) 打製石斧・石鏝・土師器
111	J-37 H-23	五反田	黒田五反田	縄文古墳	台地上	水田・畑・宅地	土器(縄文中期)・石鏝・石匙・石 土師器・有孔石鏝・石小刀
112	J-38 H-24	月の輪上	黒田月の輪	縄文古墳	台地上	畑・宅地	土器(縄文早・前・中期)・石鏝・ 磨石・土師器
113	J-36 H-22	奥山地	黒田奥山地	縄文古墳	山 観 台地上	山林・畑・宅地	土器(縄文早・前期)・磨石・石鏝・ 打製石斧・土師器
114	Y-1	田中	黒田田中	弥生	平地	水田・畑・宅地	土器(弥生後期)
115	H-29	坊地下	黒田坊地	古墳	台地上	宅地	土師器・勾玉
116	H-27	坊地南	黒田坊地	古墳	台地上	山林・畑	土師器
117	H-26	月の輪下	黒田月の輪	古墳 江戸	台地端部	宅地	土師器
121	J-35 H-21	上高原	貫戸上高原	縄文古墳	台地上	畑	土器(縄文中期)・土師器
122	J-79 H-67	出口	貫戸出口	縄文古墳	台地上	畑	土器(縄文中期)・石鏝 打製石斧・石鏝・土師器

図-1 遺跡位置図 (1 : 20,000)



地質図凡例

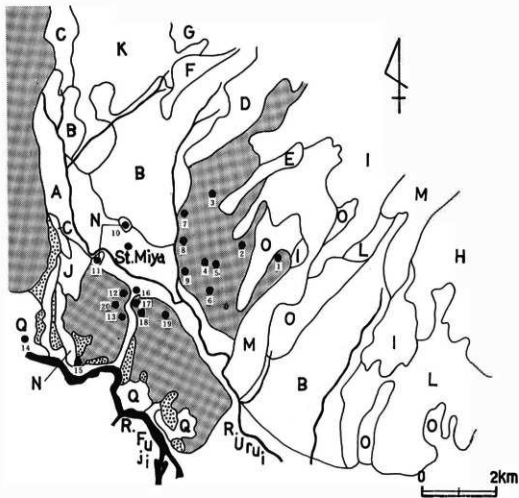
- A. 沖積砂礫層 B. 火山性砂礫層 C. 中井出熔岩 D. 元村山熔岩 E. 神成熔岩
F. 宮内熔岩 G. 天母山熔岩 H. 坂下熔岩 I. 大塚熔岩 J. 沼久保熔岩
K. 万野風穴熔岩 L. 今泉熔岩 M. 入山瀬熔岩 N. 大宮熔岩 O. 大瀧熔岩
Q. 岩淵火山噴出物層
ドット. 別所礫層
トーン. 古富士火山噴出物層

縄文時代早期遺跡

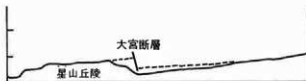
1. 焼畑遺跡 2. 杉田西原遺跡 3. 箕輪 B 遺跡 4. 代官屋敷遺跡
5. 若宮遺跡 6. 上雷遺跡 7. 丸ヶ谷戸遺跡 8. 神祖遺跡
9. 上石敷遺跡 10. 浅間大柱遺跡 11. 滝戸遺跡 12. 坊地上遺跡
13. 倭文神社遺跡 14. 小松原 A 遺跡 15. 沼久保坂上遺跡 16. 南部谷戸遺跡
17. 月の輪平遺跡 18. 月の輪上遺跡 19. 奥山地遺跡

注. 富士宮市の早期遺跡については、伊藤昌光 1965 「V. まとめ 1. 富士宮市内の縄文時代早期主要遺跡について」『沼久保坂上遺跡』富士宮市教育委員会に論考されている。

図-2 富士西麓の地質図、断面図



東西断面図



大宮断層図

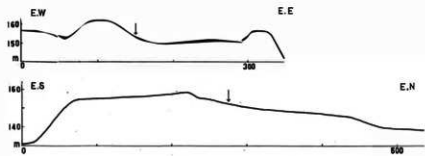
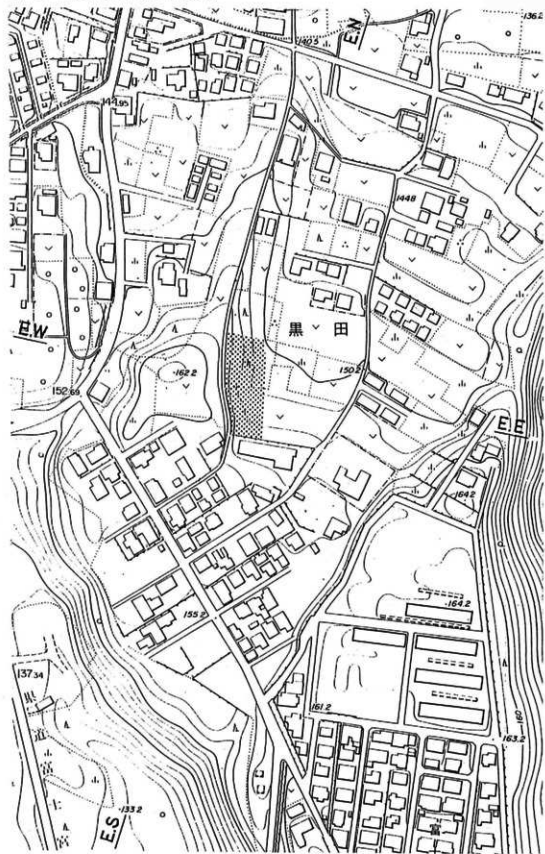
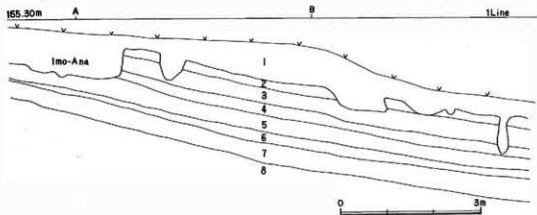


图-3 周边地形图 (1:2,500)

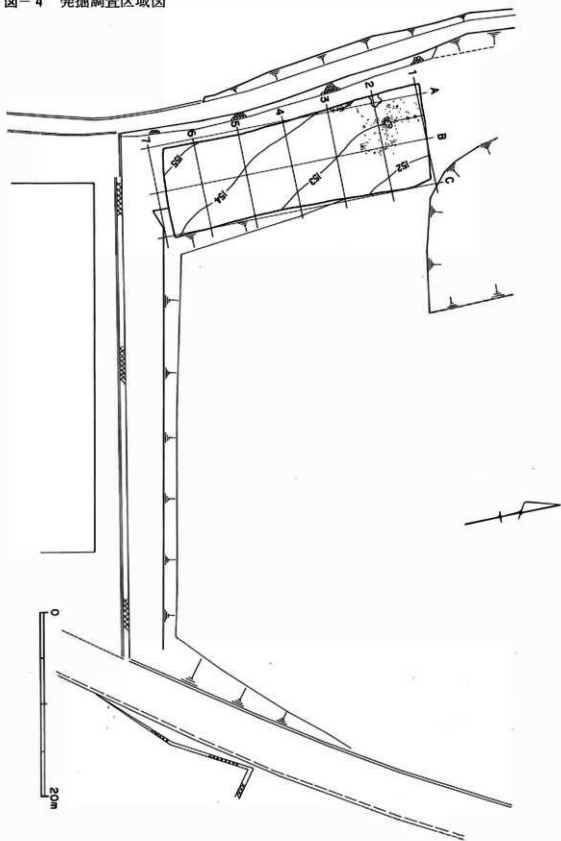


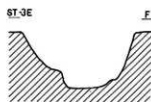
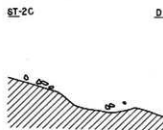
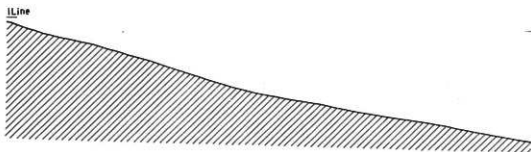


土層図凡例

1. 表土
2. 大沢ラビリ層 (富士マサ)
3. 黒褐色土層Ⅰ (粘性少なく、スコリア粒子含有)
4. 黒褐色土層Ⅱ (粘性が増し、スコリア粒子少量)
5. 褐色土層Ⅰ (栗色土層に対応)
6. 褐色土層Ⅱ (上層より黒色を増し、下部の大粒スマリア含有)
7. 暗褐色土層 (黒土黒土層に対応、上・下層の混入で明るさを増す)
8. 赤褐色土層 (大粒スコリア粒含有)

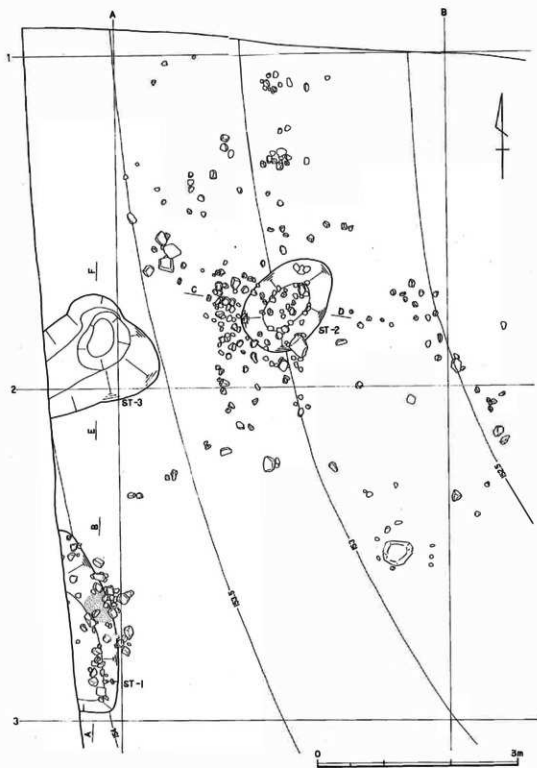
图-4 発掘調査区域図





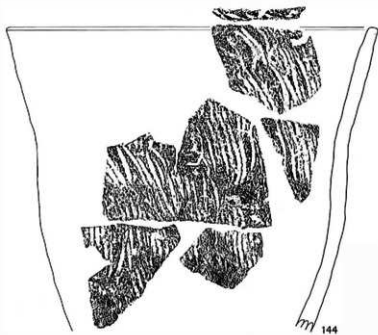
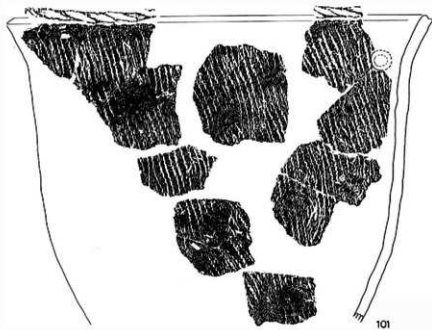
L 154.20m

図-5 遺構実測図



番号	種類	出土区	部位	文様	胎土	色	調(内外)	焼成	備考
101	1群A類1種	A-1.2区	——口唇 胴部	棒状工具斜連続 押圧 燃糸文(L)	大長・英・織	橙褐	暗褐~黒褐	良好	
144	1群A類4種	A-1.2 A-5-6	——口唇 胴部	棒状工具斜連続 押圧 燃糸文(r)	大長・英・織	褐	暗褐	不良	

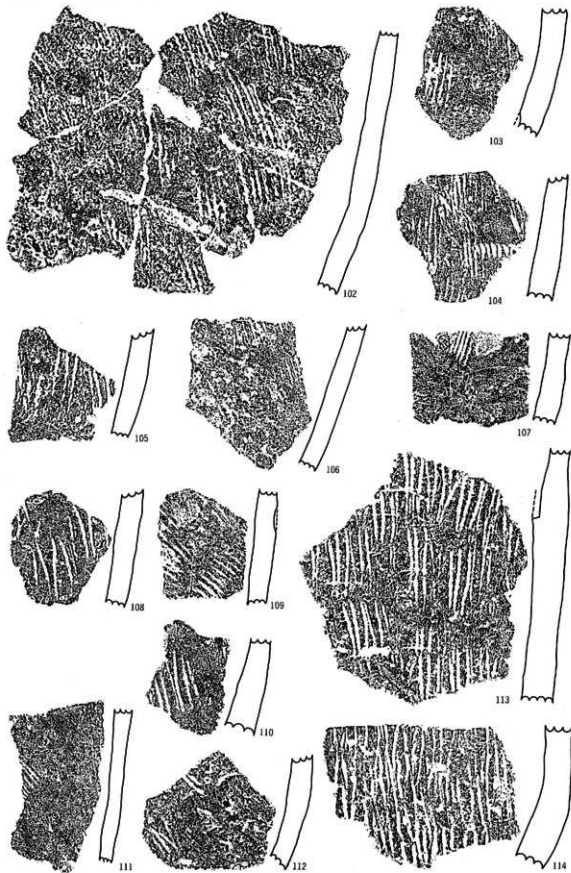
图-6 第I群土器拓影图-1



0 10cm

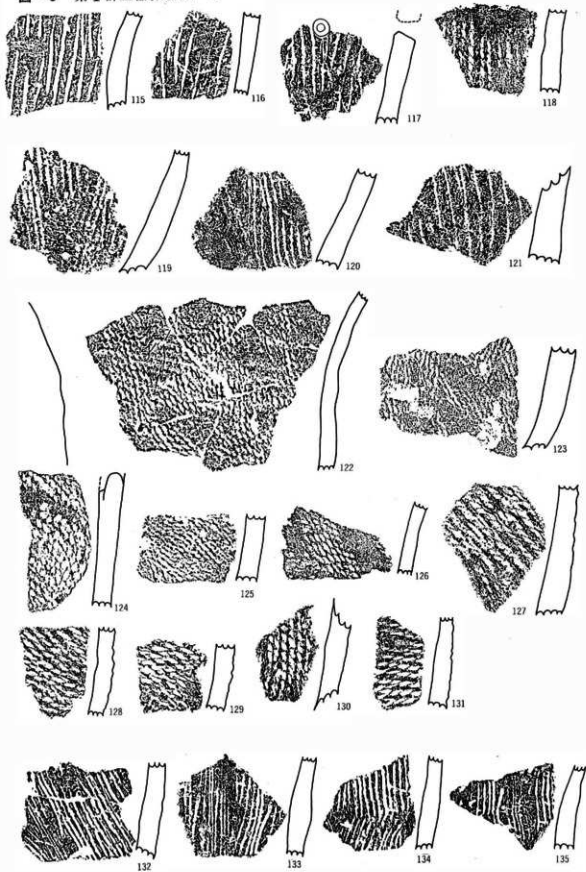
番号	類 種	出土区 部位	文 様	胎 土	色 調 (内外)	焼成	備考
102	I群A類1種	A・B-3胸部	撫糸文 (R)	長・英・多砂・少織	暗灰褐 橙褐～褐	良好	
103	I群A類1種	<small>焼記 同産区</small> 胸部	撫糸文 (R)	大長・英・多織	橙褐 暗灰褐	不良	
104	I群A類1種	A-3 胸部	撫糸文 (R)	大長・英・織	灰褐 赤褐	良	結糸体正洪有
105	I群A類1種	A-3 胸部	撫糸文 (L)	大長・英・多織	灰赤褐 黒褐	不良	
106	I群A類1種	B-3 胸部	撫糸文 (R)	長・英・多砂・織	暗灰褐 橙褐	良	
107	I群A類1種	表土 胸部	撫糸文 (R)	長・英・砂・織	灰褐 橙褐	良	
108	I群A類1種	A-2 胸部	撫糸文 (R)	長・英・多砂・織	暗褐 赤褐	良	
109	I群A類1種	B-2 胸部	撫糸文 (R)	長・英・多砂・織	暗褐 橙褐	良	
110	I群A類1種	A-1 胸部	撫糸文 (R)	大長・英・織	黄褐 茶褐	良	
111	I群A類1種	A-1 胸部	撫糸文 (R)	大長・英・織	黄褐 暗褐	良	
112	I群A類1種	B-3 胸部	撫糸文 (R)	大長・英・多織	黒褐 黄褐	良	
113	I群A類1種	B-1 胸部	撫糸文 (ℓ)	大長・英・織	褐 暗褐	良	
114	I群A類1種	A-3 胸部	撫糸文 (ℓ)	大長・英・多織	暗褐 褐	不良	

图-7 第I群土器拓影图-2



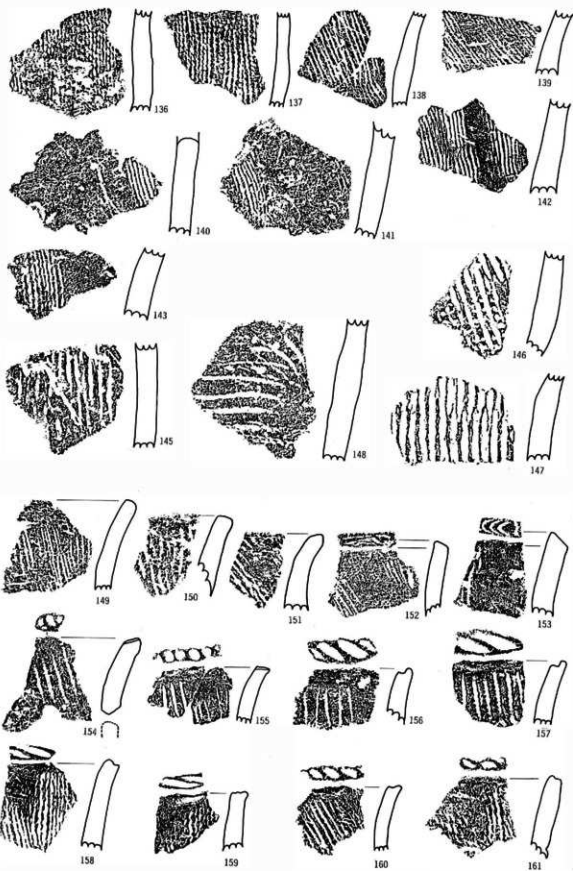
番号	類	種	出土区	部位	文様	胎土	色	調(内外)	焼成	備考
115	I群A類	1種	A-1	胴部	摺糸文(ℓ)	大長・英・多砂・少織	褐	黒褐	良好	
116	I群A類	1種	A-2	胴部	摺糸文(ℓ)	大長・英・砂・織	黄褐	暗褐	良好	
117	I群A類	1種	A-2	胴部	摺糸文(L)	大長・英・砂・多織	黒褐	褐	不良	
118	I群A類	1種	A-2	胴部	摺糸文(R)	大長・英・織	灰褐	黒灰褐	良	
119	I群A類	1種	A-3	胴部	摺糸文(L)	細砂・金雲・少織	黒灰	黄褐	良好	
120	I群A類	1種	表土	胴部	摺糸文(R)	大長・英・織	橙褐	暗灰褐	不良	
121	I群A類	1種	B-3	胴部	摺糸文(r)	大長・英・多織	赤灰褐	黒褐	不良	ケル付番
122	I群A類	2種	A-4	胴部	摺糸文(R)	大長・英・砂・織	暗赤褐	黒褐	良	
123	I群A類	2種	A-2	胴部	摺糸文(R)	長・英・砂・織	暗褐	橙褐	良	
124	I群A類	2種	A-2	胴部	摺糸文(L)	砂・多金雲・微織	灰褐	灰赤褐	良好	
125	I群A類	2種	表土	胴部	摺糸文(R)	大長・英・織	灰赤褐	暗褐	良	
126	I群A類	2種	A-2	胴部	摺糸文(R)	大長・英・細砂・少織	黄褐	黒灰	良	
127	I群A類	2種	A-2	胴部	摺糸文(R)	細砂多金雲・微織	灰褐	暗褐	良好	
128	I群A類	2種	A-1	胴部	摺糸文(R)	細砂多金雲・微織	灰褐	灰褐	良好	
129	I群A類	2種	A-1	胴部	摺糸文(R)	長・多英	赤褐	黒褐	良好	
130	I群A類	2種	A-1	胴部	摺糸文(R)	細砂多金雲・微織	黒灰	灰褐	良好	
131	I群A類	2種	A-2	胴部	摺糸文(R)	長・多英	灰褐	灰褐	良	
132	I群A類	3種	A-1	胴部	摺糸文(R)	大長・英・少織	黄灰褐	赤褐	良	
133	I群A類	3種	A-2	胴部	摺糸文(R)	大長・英・微織	黄褐	褐	不良	
134	I群A類	3種	A-2	胴部	摺糸文(R)	大長・英・少織	黄褐	灰褐	良	
135	I群A類	3種	A-2	胴部	摺糸文(R)	大長・英・少織	赤褐	黄褐	良	

图-8 第I群土器拓影图-3



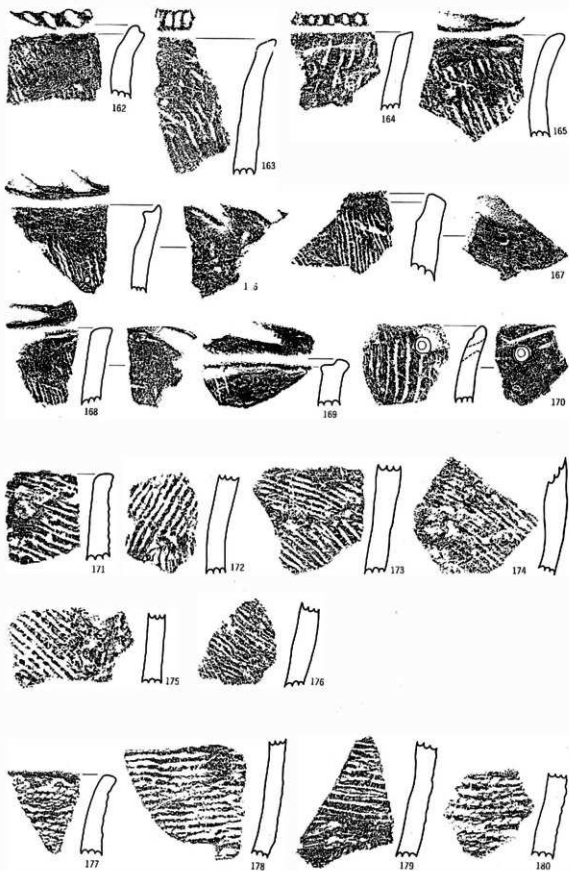
番号	類	種	出土区	部位	文様	胎土	色	調(内外)	焼成	備考
136	I群A類	3種	A-2	胴部	撫糸文(R)	大長、多英、織	黒褐	灰褐	良	
137	I群A類	3種	A-1	胴部	撫糸文(R)	長、英、砂、織	黒褐	黒褐	良	
138	I群A類	3種	B-1	胴部	撫糸文(R)	大長、英、織	橙褐	暗褐	良	
139	I群A類	3種	B-1	胴部	撫糸文(R)	大長、英、織	褐	黒褐	良	
140	I群A類	3種	A-5	胴部	撫糸文(L)	長、英、砂、多織	淡褐色	暗灰褐	不良	
141	I群A類	3種	A-3	胴部	撫糸文(L)	長、英、多織	黄褐	赤褐	良	
142	I群A類	3種	B-1	胴部	撫糸文(L)	大長、英、礫、多織	赤褐	暗褐	良	
143	I群A類	3種	B-4	胴部	撫糸文(L)	大長、英、織	赤褐	暗褐	良	
145	I群A類	4種	B-4	胴部	撫糸文(L)	長、英、細砂、多織	黒灰	暗褐	良	
146	I群A類	4種	A-2	胴部	撫糸文(L)	長、英、礫、織	暗灰褐	暗褐	良	
147	I群A類	4種	B-1	胴部	撫糸文(L)	長、英、礫、織	灰褐	暗灰褐	良	
148	I群A類	4種	A-2	胴部	撫糸文(L)	砂礫、多雲、少織	暗橙褐	黒褐	不良	
149	I群A類	3種	A-2	口縁部	撫糸文(R)	大長、英、織	橙褐	褐	不良	
150	I群A類	1種	A-3	口縁部	撫糸文(R?)	大長、英、砂、多織	暗褐	赤褐	不良	
151	I群A類	1種	A-6	口縁部	撫糸文(R)	長、英、多砂、少織	橙褐	褐	良	
152	I群A類	3種	B-3	口縁部	口唇 撫糸文(L) 胴部 撫糸文(L)	大長、英、織	赤褐	褐	良好	
153	I群A類	1種	表土	口縁部	口唇 爪形状工具連続刺突 胴部 撫糸文(L?)	長、英、織	橙褐	灰褐	良	
154	I群A類	1種	A-1	口縁部	口唇 棒状工具連続押圧 胴部 撫糸文(L?)	大長、英、織	橙褐	暗橙褐	良	
155	I群A類	1種	A-3	口縁部	口唇 棒状工具連続押圧 胴部 撫糸文(L)	長、英、砂、織	黒褐	黒褐	良	
156	I群A類	1種	表土	口縁部	口唇 棒状工具斜連続押圧 胴部 撫糸文(R)	大長、英、織	灰褐	橙褐	良	
157	I群A類	1種	B-2	口縁部	口唇 棒状工具斜連続押圧 胴部 撫糸文(R)	大長、英、織	暗黄褐	暗褐	良	
158	I群A類	2種	確認調査	口縁部	口唇 棒状工具斜連続押圧 胴部 撫糸文(L)	大長、英、織	赤褐	褐	良	
159	I群A類	2種	A-2	口縁部	口唇 棒状工具斜連続押圧 胴部 撫糸文(L)	大長、英、少織	赤褐	褐	良好	
160	I群A類	2種	表土	口縁部	口唇 棒状工具斜連続押圧 胴部 撫糸文(R)	長、英、砂、織	橙褐	黒褐	良	
161	I群A類	2種	B-5	口縁部	口唇 棒状工具斜連続押圧 胴部 撫糸文(R)	長、英、砂、少織	橙褐	暗褐	不良	

图-9 第I群土器拓影图-4



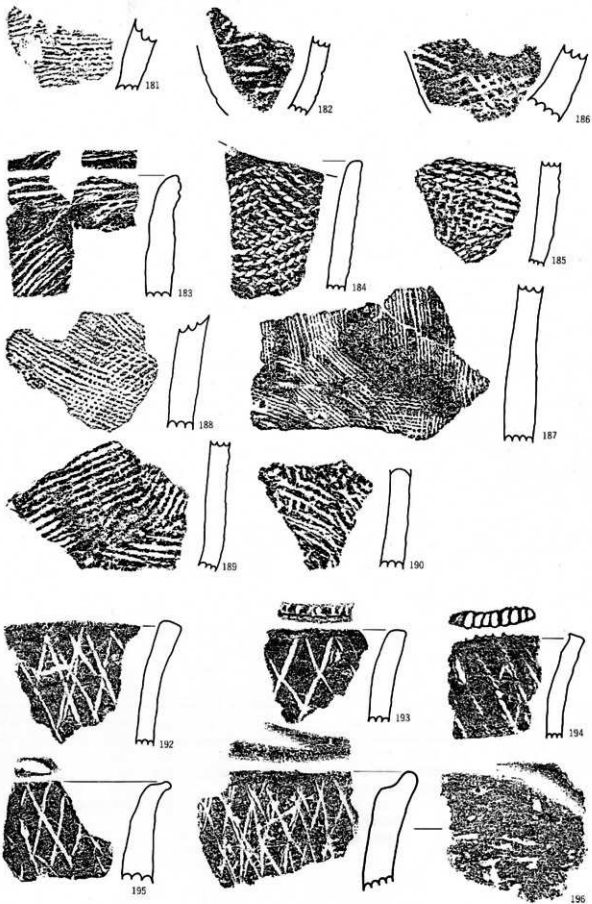
番号	類 種	出土区	部位	文 様	胎 土	色 調 (内外)	焼成	備考
162	I群A類2種	B-3	口縁部	口唇 棒状工具斜連続押圧 胴部 摺糸文(R)	長、英、砂、織	赤褐 暗褐	良	
163	I群A類4種	A-1	口縁部	口唇 棒状工具連続押圧 胴部 摺糸文(R)	大長、英、砂、織	暗褐 赤褐	良	
164	I群A類4種	A-4	口縁部	口唇 ヘラ状工具連続刺突 胴部 摺糸文(ℓ)	長、英、多砂、少織	褐 灰褐	不良	スス付着
165	I群A類1種	A-3	口縁部	口唇 螺旋状凹帯 胴部 摺糸文(R)	長、英、砂 織	灰褐 暗灰褐	良好	
166	I群A類2種	A-1	口縁部	口唇 螺旋状凹帯 胴部 摺糸文(R)	大長、英、砂、織	橙褐 黒褐	良	
167	I群A類3種	B-1	口縁部	口唇 螺旋状凹帯 胴部 摺糸文(R)	長、英、織	暗赤褐 暗褐	良	
168	I群A類3種	A-1	口縁部	口唇 螺旋状凹帯 胴部 摺糸文(R)	大長、英、織	赤褐 暗灰褐	良	
169	I群A類3種	B-3	口縁部	口唇 螺旋状凹帯 胴部 摺糸文(R)	大長、英、織	黒褐 暗褐	良	
170	I群A類1種	A-2	口縁部	表面 摺糸文(R?) 裏面 斜行沈線	大長、英、砂、織	暗褐 黄褐	良	
171	I群B類	表土	口縁部	摺糸文(r)	細砂	灰黄褐 灰黄褐	良	
172	I群B類	A-3	胴部	摺糸文(R)	金雲、砂、少織	暗灰褐 赤褐	良好	
173	I群B類	A-2	胴部	摺糸文(R)	長、英、砂、微織	暗褐 赤褐	良	
174	I群B類	B-1	胴部	摺糸文(R)	長、英、砂、織	暗褐 赤褐	良	
175	I群B類	B-1	胴部	摺糸文(R)	金雲、多砂、織	暗褐 灰褐	良	
176	I群B類	B-2	胴部	摺糸文(ℓ?)	金雲、多砂、微織	灰褐 黄褐	不良	
177	I群C類	B-3	口縁部	摺糸文(R)	長、英、多砂	褐 暗褐	良好	スス不着
178	I群C類	B-1	胴部	摺糸文(R)	金雲、多砂、少織	暗褐 灰褐	良好	
179	I群C類	A-2	胴部	摺糸文(R)	多砂	暗褐 黄褐	良	
180	I群C類	A-2	胴部	摺糸文(R)	長、英、砂、織	灰褐 暗黄褐	良	

图-10 第I群土器拓影图-5



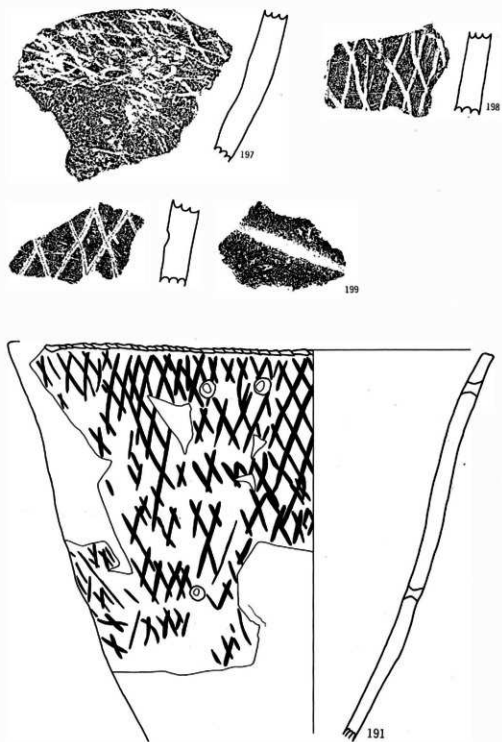
番号	類 種	出土区	部位	文 様	胎 土	色	調 (内外)	焼成	備考
181	I群C類	A-2	胴部	燃糸文 (R)	長、英、砂、金雲	灰褐	灰褐	良	
182	I群C類	確調	底部	燃糸文 (R)	長、英、砂、少織	褐	黄褐	良	
183	I群D類1種	B-2	口縁部	口唇 燃糸文 (R) 胴部 燃糸文 (R)	金雲、砂、織	赤褐	暗褐	不良	
184	I群D類2種	A-1	口縁部	燃糸文 (R)	長、英、砂、織	暗褐	暗灰褐	良	液状口縁
185	I群D類2種	A-3	胴部	燃糸文 (R)	長、英、細砂	褐	褐	良	
186	I群D類2種	A-1	底部	燃糸文 (L)	金雲、多砂	灰褐	橙褐	良	
187	I群D類3種	B-2	胴部	燃糸文 (R)	大長、英、織	赤褐	暗褐	良	
188	I群D類3種	B-3	胴部	燃糸文 (R)	多砂	橙褐	黒褐	良	
189	I群D類3種	表土	胴部	燃糸文 (R)	金雲、砂、微織	暗褐	赤褐	良好	
190	I群D類3種	A-1	胴部	燃糸文 (R)	金雲、砂、織	暗褐	灰褐	良	
192	I群E類	A-6	口縁部	燃糸文 (R)	大長、英、織	黄褐	赤褐	良	頸状口縁
193	I群E類	B-4	口縁部	口唇 爪形状工具連 統刺突 胴部 燃糸文 (ℓ)	大長、英、織	暗褐	黒褐	良	
194	I群E類	A-3	口縁部	口唇 棒状工具連統 刺突 胴部 燃糸文 (R)	大長、英、織	灰褐	黒褐	良	
195	I群E類	表土	口縁部	口唇 棒状工具斜連 統押圧 胴部 燃糸文 (ℓ)	大長、英、砂、織	赤褐	暗褐	良	
196	I群E類	B-2	口縁部	口唇~裏面 螺旋状 凹線 胴部 燃糸文 (ℓ)	大長、英、砂、織	暗赤褐	暗褐	良	

图-11 第I群土器拓影图-6



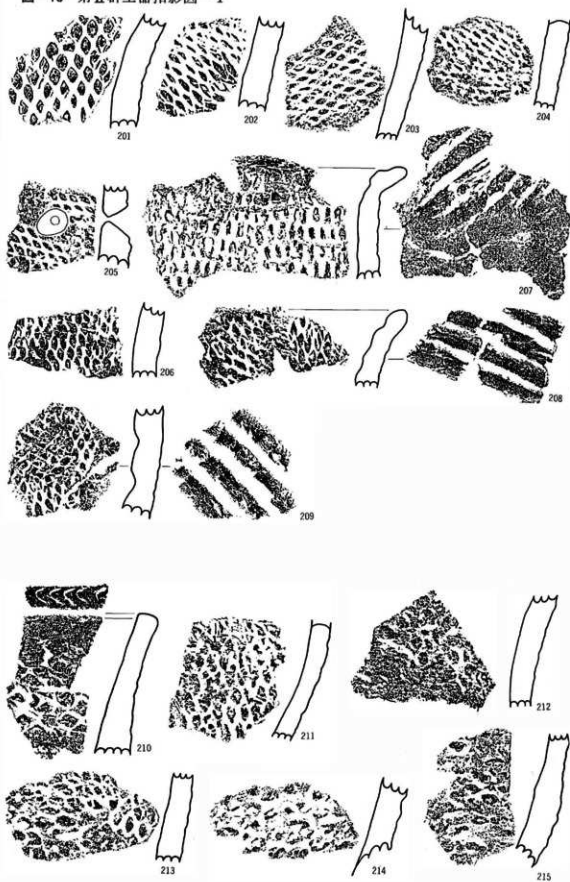
番 号	類 種	出土区 部位	文 様	胎 土	色	調 (内外)	焼成	備考
197	I群E類	A-6 胴部	撫糸文 (ℓ)	大長、英、織	黄褐	赤褐	良	
198	I群E類	A-2 胴部	撫糸文 (ℓ)	大長、英、織	灰褐	褐	良	
199	I群E類	B-2 胴部	撫糸文 (ℓ)	大長、英、織	暗灰褐	暗褐	良	
191	I群E類	A-2 — B-2-3	口唇 へら状工具連 絞刺突 胴部 撫糸文 (ℓ)	大長、英、織	黄褐	暗褐～赤褐	良	

图-12 第 I 群土器拓影图-7



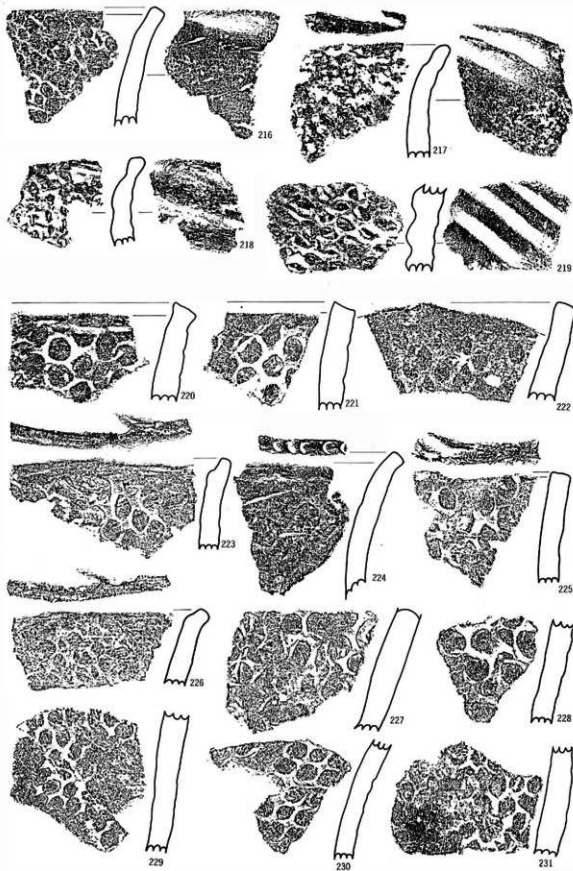
番号	類 種	出土区 部位	文 様	胎 土	色 調 (内外)	焼成	備考
201	Ⅱ群A類	A-3 胴部	押型文(楕円)	長、英 織	暗赤褐 黒褐	良	
202	Ⅱ群A類	B-2 胴部	押型文(楕円)	長、英、多砂、織	暗赤褐 黒褐	良	
203	Ⅱ群A類	A-2 胴部	押型文(楕円)	大長、英、織	暗灰褐 黄褐	良	
204	Ⅱ群A類	B-2 胴部	押型文(楕円)	長、英 砂、織	灰褐 黄褐	良	
205	Ⅱ群A類	A-2 胴部	押型文(楕円)	大長、英、織	暗灰褐 淡赤灰	良	
206	Ⅱ群A類	B-3 胴部	押型文(楕円)	大長、英、砂、織	黄褐 暗褐	良	
207	Ⅱ群A類	A-1 口縁部	表一押型文(楕円) 裏一螺旋状凹線	大長、英、砂、織	黒灰-褐 黒灰褐	良	
208	Ⅱ群A類	B-4 口縁部	表一押型文(楕円) 裏一螺旋状凹線	長、英、礫、織	暗褐 黒褐	良	
209	Ⅱ群A類	A-4 胴部	表一押型文(楕円) 裏一螺旋状凹線	大長、英、織	灰褐 暗灰褐	不良	
210	Ⅱ群B類	A-6 口縁部	口唇 爪形工具連続 刺突 胴部 押型文(楕円)	大長、英、織	褐 黒褐	良	
211	Ⅱ群B類	A-1 胴部	押型文(楕円)	長、英、織	灰褐 灰褐	良	
212	Ⅱ群B類	A-1 胴部	押型文(楕円)	大長、英、織	黄褐 暗灰褐	良	
213	Ⅱ群B類	A-2 胴部	押型文(楕円)	長、英、砂、少織	黒灰褐 橙褐	良	
214	Ⅱ群B類	A-2 胴部	押型文(楕円)	長、英、砂、少織	黄褐 橙褐	良	
215	Ⅱ群A類	A-1 胴部	押型文(楕円)	大長、英、砂、少織	黒褐 赤褐	良	

图-13 第II群土器拓影图-1



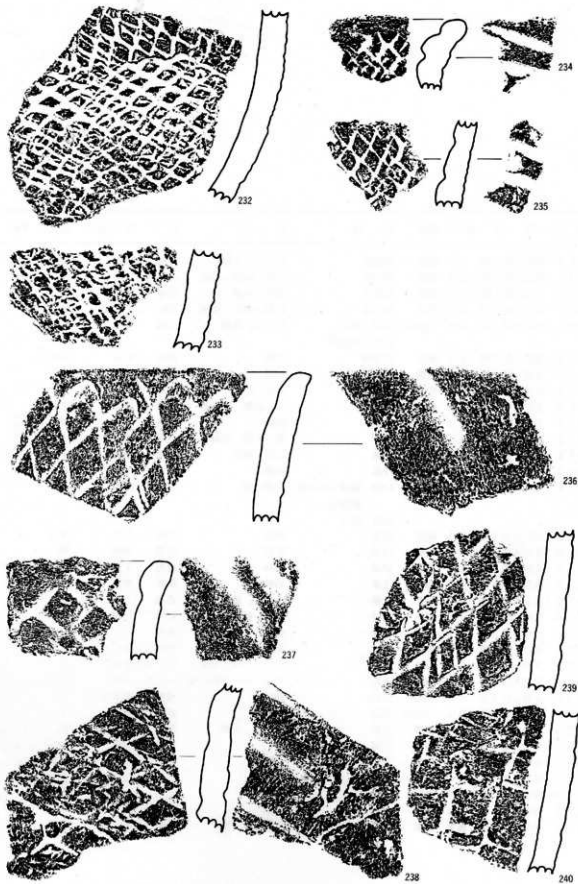
番号	種類	出土区	部位	文様	胎土	色	調(内外)	納成	備考
216	Ⅱ群B類	A-2	口縁部	表一押型文(楕円) 口縁裏一螺旋状凹線	長、英、砂、織	暗褐	黒褐	良	
217	Ⅱ群B類	A-1	口縁部	表一押型文(楕円) 口唇~口縁裏 螺旋 状凹線	大長、英、織	黄褐	橙褐	良	
218	Ⅱ群B類	A-2	口縁部	表一押型文(楕円) 裏一螺旋状凹線	長、英 織	橙褐	褐	良	
219	Ⅱ群B類	A-4	胴部	表一押型文(楕円) 裏一螺旋状凹線	長、英、砂、織	灰褐	灰褐	良	
220	Ⅱ群C類	A-4	口縁部	押型文(楕、円形)	大長、英、砂、織	褐	灰褐	良	
221	Ⅱ群C類	A-3	口縁部	押型文(楕、円形)	長、英、砂、織	橙褐	暗褐	良好	
222	Ⅱ群C類	B-1	口縁部	押型文(楕、円形)	長、英、織	赤褐	暗褐	良	波状口縁
223	Ⅱ群C類	A-2	口縁部	口唇~口縁裏 螺旋 状凹線 胴部 押型文(楕・ 円形)	大長、英、織	灰褐	褐	良	
224	Ⅱ群C類	A-2	口縁部	口唇 爪形工具連続 刺突 胴部 押型文(楕・ 円形)	大長、英、織	暗赤褐	褐	良	
225	Ⅱ群C類	表土	口縁部	口唇~口縁裏 螺旋 状凹線 胴部 押型文(楕・ 円形)	大長、英、織	褐	赤褐	良好	
226	Ⅱ群C類	表土	口縁部	口唇~口縁裏 螺旋 状凹線 胴部 押型文(楕・ 円形)	大長、英、織	黒褐	暗褐	良好	
227	Ⅱ群C類	A-2	口縁部	押型文(楕、円形)	大長、英、織	赤褐	橙褐	良好	
228	Ⅱ群C類	A-2	口縁部	押型文(楕、円形)	大長、英、織	赤褐	赤褐	良好	
229	Ⅱ群C類	B-6	胴部	押型文(楕、円形)	大長、英、織	褐	赤褐	良好	
230	Ⅱ群C類	A-2	胴部	押型文(楕、円形)	大長、英、織	橙褐	灰褐	良好	
231	Ⅱ群C類	B-6	胴部	押型文(楕、円形)	大長、英、織	暗灰褐	赤褐	良好	

图-14 第Ⅱ群土器拓影图-2



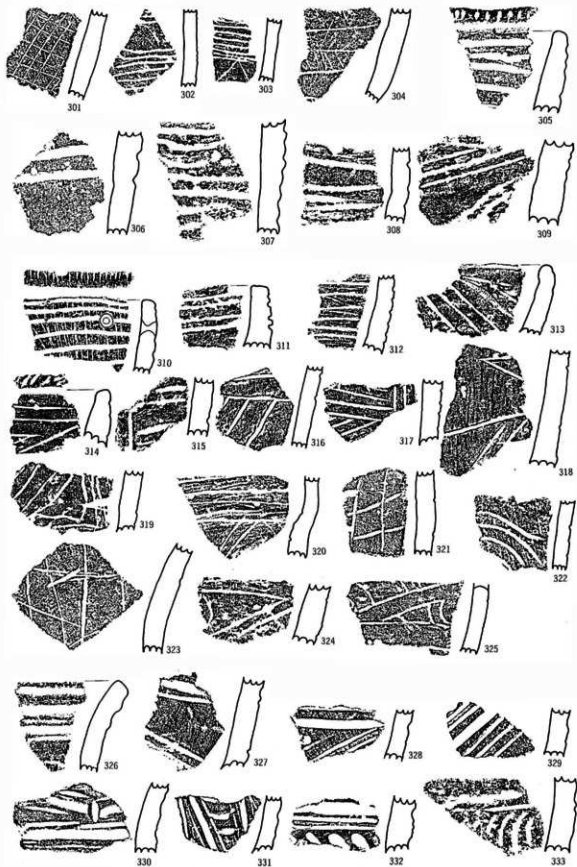
番号	類 種	出土区 部位	文 様	胎 土	色	調 (内外)	焼成	備考
232	Ⅱ群D類	A-2 胴部	押型文(略菱形)	長、英、砂、織	黄褐	暗褐~灰褐	良好	
233	Ⅱ群D類	B-5 胴部	押型文(略菱形)	長、英、砂、織	黄褐	黄褐	良好	
234	Ⅱ群D類	B-2 口縁部	表一押型文(略菱形) 裏一螺旋状凹線	長、英、多砂、織	黄褐	灰褐	良	
235	Ⅱ群D類	A-2 胴部	表一押型文(略菱形) 裏一螺旋状凹線	長、英、砂、少織	黄褐	灰褐	良	Z4上同?
236	Ⅱ群D類	B-4 口縁部	口唇~口縁裏 螺旋 状凹線 胴部 押型文(略菱 形)	大長、英、織	橙褐	褐	良	
237	Ⅱ群D類	B-5 口縁部	口唇~口縁裏 螺旋 状凹線 胴部 押型文(略菱 形)	大長、英、砂、織	橙褐	褐	良	
238	Ⅱ群D類	A-3 胴部	表一押型文(略菱形) 裏一螺旋状凹線	大長、英、織	黄灰褐	黄灰褐	良	
239	Ⅱ群D類	B-2 胴部	押型文(略菱形)	大長、英、織	赤褐	暗赤褐	良好	
240	Ⅱ群D類	A-2 胴部	押型文(略菱形)	大長、英、砂、織	暗褐	赤褐	良	

图-15 第Ⅱ群土器拓影图-3



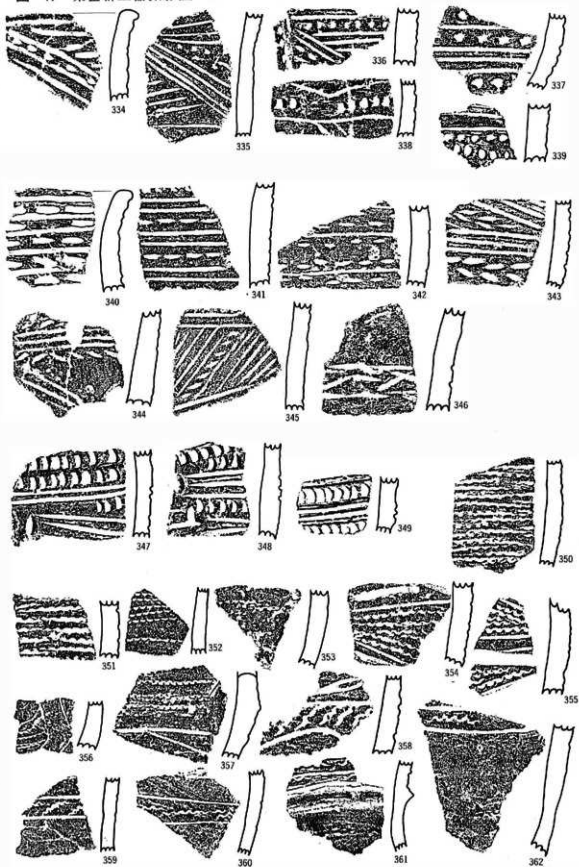
番号	種類	出土区	部位	文様	胎土	色調(内外)	焼成	備考
301	Ⅲ群A類1種	A-4	胴部	細沈線	長、莢、少織	赤褐 褐	良好	
302	Ⅲ群A類1種	A-1	胴部	細沈線	金雲、細砂、微織	黄灰褐 灰褐	良	
303	Ⅲ群A類1種	表土	胴部	細沈線	細砂、微織	灰褐 暗褐	良	
304	Ⅲ群A類1種	A-1	胴部	細沈線	金雲、細砂、微織	灰褐 赤灰褐	良	
305	Ⅲ群A類1種	A-1	口縁部	口唇 刻目	雲、砂、微織	赤褐 暗褐	良	
			胴部	太沈線				
306	Ⅲ群A類2種	A-3	胴部	太沈線	砂礫	橙褐 暗褐	不良	
307	Ⅲ群A類2種	B-5	胴部	太沈線	砂礫	黄褐 暗褐	不良	
308	Ⅲ群A類2種	B-1	胴部	太沈線	金雲、細砂	暗褐 黄褐	良	
309	Ⅲ群A類2種	A-3	胴部	太沈線	雲、砂礫、微織	赤褐 黒褐	不良	
310	Ⅲ群A類3種	B-1	口縁部	沈線	細砂	暗褐 暗褐	良	
311	Ⅲ群A類3種	A-1	口縁部	沈線	雲、砂礫、微織	赤褐 暗褐	不良	
312	Ⅲ群A類3種	A-3	胴部	沈線	金雲、細砂	暗褐 暗褐	不良	赤色濃部 或307114?
313	Ⅲ群A類3種	A-1	口縁部	沈線	砂礫、	赤褐 赤灰褐	良好	309と同一 2015
314	Ⅲ群A類3種	A-2	口縁部	口唇 棒状工具斜造	砂礫少織	暗赤褐 暗褐	不良	
			胴部	沈線				
315	Ⅲ群A類3種	B-5	胴部	沈線	細砂	赤褐 灰褐	不良	
316	Ⅲ群A類3種	A-6	胴部	沈線	細砂	黒褐 黒褐	良	
317	Ⅲ群A類3種	A-3	胴部	沈線	細砂	橙褐 灰褐	良	
318	Ⅲ群A類3種	A-3	胴部	沈線	細砂	暗褐 橙褐	良好	
319	Ⅲ群A類3種	A-1	胴部	沈線	長、莢、砂、織	赤褐 灰褐	良	
320	Ⅲ群A類3種	A-4	胴部	沈線	金雲、砂	暗褐 暗褐	不良	
321	Ⅲ群A類3種	A-4	胴部	沈線	砂	赤褐 暗褐	良	
322	Ⅲ群A類3種	A-3	胴部	沈線	細砂、織	暗褐 暗~赤褐	不良	
323	Ⅲ群A類3種	A-2	胴部	沈線	長、莢、砂、微織	灰黄褐 暗褐	良	
324	Ⅲ群A類3種	A-4	胴部	沈線	大長、莢、砂礫、織	灰赤褐 赤褐	不良	
325	Ⅲ群A類3種	表土	胴部	沈線	細砂	黄褐 暗黄褐	良	
326	Ⅲ群A類4種	B-2	口縁部	沈線	多細砂	赤褐 黄褐	不良	
327	Ⅲ群A類4種	B-2	胴部	沈線	長、莢、砂礫	灰褐 黄褐	良	
328	Ⅲ群A類4種	A-3	胴部	沈線	砂	赤褐 赤褐	良好	
329	Ⅲ群A類4種	A-1	胴部	沈線	細砂	赤褐 褐	良好	
330	Ⅲ群A類4種	A-6	胴部	沈線	細砂	赤褐 暗赤褐	良好	
331	Ⅲ群A類4種	A-2	胴部	沈線	細砂	赤褐 赤褐	良好	
332	Ⅲ群A類4種	A-1	胴部	沈線	細砂	赤褐 褐	良好	
333	Ⅲ群A類4種	調査	胴部	沈線	多細砂	黄褐 黄赤褐	不良	

图-16 第四群土器拓影图-1



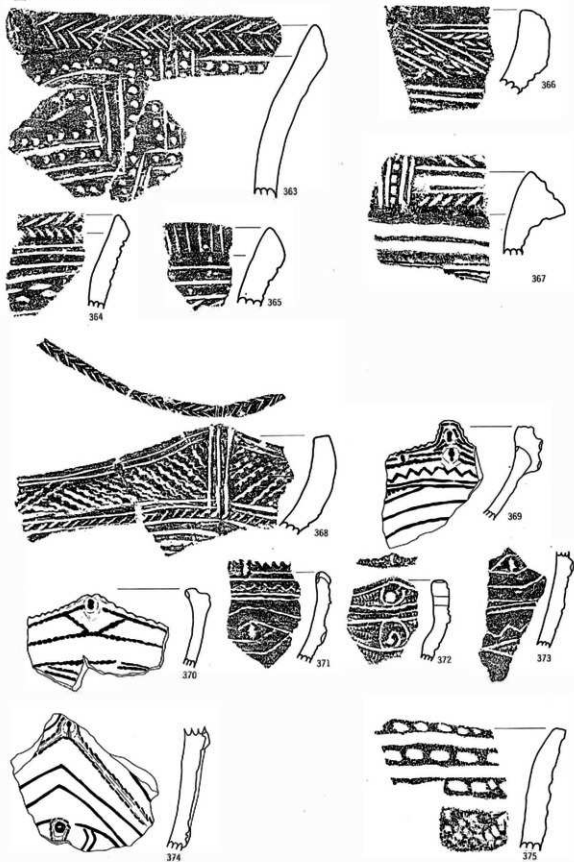
番号	類 種	出土区 部位	文 様	胎 土	色 調 (内外)	焼成	備考
334	Ⅲ群B類1種	B-2	口縁部 沈線・刺突文	長、英、砂、微織	灰褐	暗灰褐	良
335	Ⅲ群B類1種	A-1	胴部 沈線・刺突文	多砂	暗灰褐	黒褐	良
336	Ⅲ群B類1種	A-6	胴部 沈線・刺突文	多砂	赤褐	褐	良
337	Ⅲ群B類1種	B-1	胴部 沈線・刺突文	多細砂	褐	赤褐	良
338	Ⅲ群B類1種	A-5	胴部 沈線・刺突文	多細砂	黄褐	灰褐	良
339	Ⅲ群B類1種	A-4	胴部 沈線・刺突文	細砂	赤褐	褐	良
340	Ⅲ群B類2種	A-1	口縁部 沈線・刺突文	長、英、砂	暗赤褐	暗灰褐	良
341	Ⅲ群B類2種	A-6	胴部 沈線・刺突文	長、英、砂	褐	赤褐	良好
342	Ⅲ群B類2種	A-2	胴部 沈線・刺突文	砂	灰褐	赤灰褐	良
343	Ⅲ群B類2種	B-1	胴部 沈線・刺突文	長、英、砂	灰褐	黄褐	良
344	Ⅲ群B類2種	B-1	胴部 沈線・刺突文	細砂	暗赤褐	赤褐	良
345	Ⅲ群B類2種	A-5	胴部 沈線・刺突文	長、英、砂	黄褐	暗褐	良
346	Ⅲ群B類2種	A-1	胴部 沈線・刺突文	長、英、砂、微織	褐	黒褐	不良
347	Ⅲ群B類3種	B-6	胴部 沈線・刺突文	長、英、砂	灰褐	黄褐	良
348	Ⅲ群B類3種	A-2	胴部 沈線・刺突文	長、多英	褐	橙褐	良好
349	Ⅲ群B類3種	B-1	胴部 沈線・刺突文	長、多英	黄褐	暗褐	良好
350	Ⅲ群C類1種	A-2	胴部 貝殻文	細砂	褐	暗灰褐	良
351	Ⅲ群C類1種	B-4	胴部 貝殻文	砂	黄褐	暗黄褐	良
352	Ⅲ群C類1種	B-5	胴部 貝殻文	砂	黄灰褐	灰褐	良
353	Ⅲ群C類1種	A-2	胴部 貝殻文	金雲、砂	暗褐	褐	良
354	Ⅲ群C類2種	A-4	胴部 貝殻文	長、英、砂	赤褐	赤褐	良
355	Ⅲ群C類2種	A-2	胴部 貝殻文	長、英、砂	赤褐	暗赤褐	良好
356	Ⅲ群C類2種	B-5	胴部 貝殻文	細砂	赤褐	黒褐	良
357	Ⅲ群C類2種	B-6	胴部 貝殻文	長、英、砂	暗黄褐	褐	良
358	Ⅲ群C類2種	A-2	胴部 貝殻文	大長、英、砂	赤褐	褐	良
359	Ⅲ群C類2種	A-1	胴部 貝殻文	長、英、砂	赤褐	赤褐	良
360	Ⅲ群C類2種	A-2	胴部 貝殻文	長、英、砂	赤褐	赤褐	良
361	Ⅲ群C類2種	A-2	胴部 貝殻文	細砂	褐	赤褐	良
362	Ⅲ群C類2種	表土 胴部	貝殻文	大長、英、砂、微織	赤褐	暗褐	不良

图-17 第三群土器拓影图-2



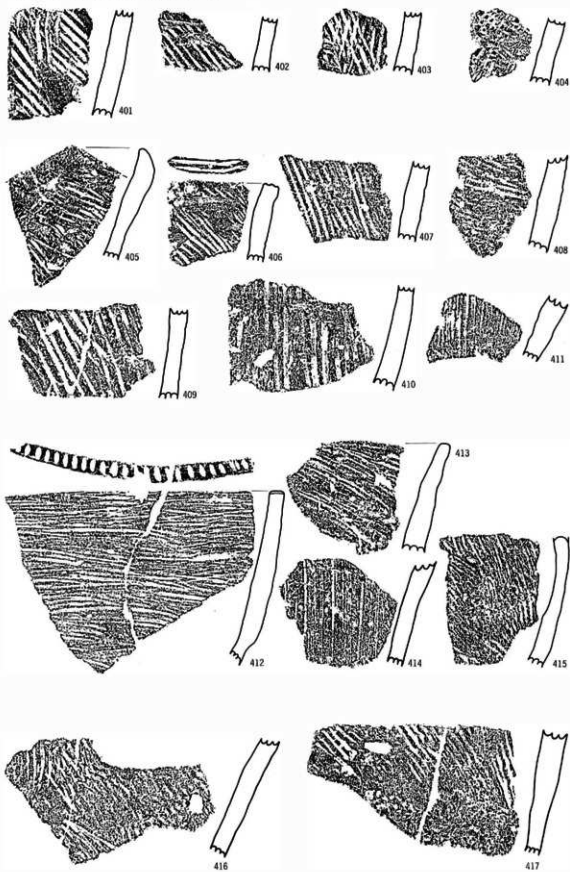
番 号	類 種	出土区	部位	文 樣	胎 土	色 調 (内外)	焼 成	備 考
363	Ⅲ群D類1種	B-2	口縁部	沈線・刺突文	長、英、砂	赤褐 褐	良好	波状口縁
364	Ⅲ群D類1種	A-3	口縁部	沈線・刺突文	長、金雲、英、砂	赤褐 暗褐	良	
365	Ⅲ群D類1種	B-1	口縁部	沈線・刺突文	多細砂	暗黄褐 暗黄褐	良	
366	Ⅲ群D類1種	A-5	口縁部	沈線・刺突文	長、英	黄褐 暗黄褐	良	
367	Ⅲ群D類1種	B-2	口縁部	沈線・刺突文	多細砂	黄褐 暗黄褐	良	
368	Ⅲ群D類2種	B-2	口縁部	口唇 縷杉状沈線 胴部 沈線・刺突・ 貝紋文	長、英、砂	黄褐 黑灰褐	良好	波状口縁
369	Ⅲ群D類2種	A-2	口縁部	口唇 刻目 胴部 沈線・刺突・ 貝紋文	長、英、砂	黄褐 暗灰褐	良	波状口縁
370	Ⅲ群D類2種	A-4	口縁部	口唇 刻目 胴部 沈線・刺突・ 貝紋文	多細砂	暗黄褐 黑褐	不良	波状口縁
371	Ⅲ群D類2種	B-2	口縁部	口唇 刻目 胴部 沈線・刺突・ 貝紋文	長、英、砂	褐 黑褐	良	
372	Ⅲ群D類2種	A-2	口縁部	口唇 刻目文 胴部 沈線・刺突・ 貝紋文	長、英、砂	暗灰褐 暗灰褐	良	ST-3 波状口縁
373	Ⅲ群D類2種	B-1	胴部	沈線・刺突文・貝紋 文	長、英、砂	暗灰褐 暗褐	良	波状口縁
374	Ⅲ群D類2種	A-1	胴部	沈線・刺突文・貝紋 文	金雲、砂	褐 赤褐	良	
375	Ⅲ群E類	A-1	口縁部	沈線・縄文	金雲、砂	褐 黑灰褐	良	ST-3

图-18 第Ⅲ群土器拓影图-3



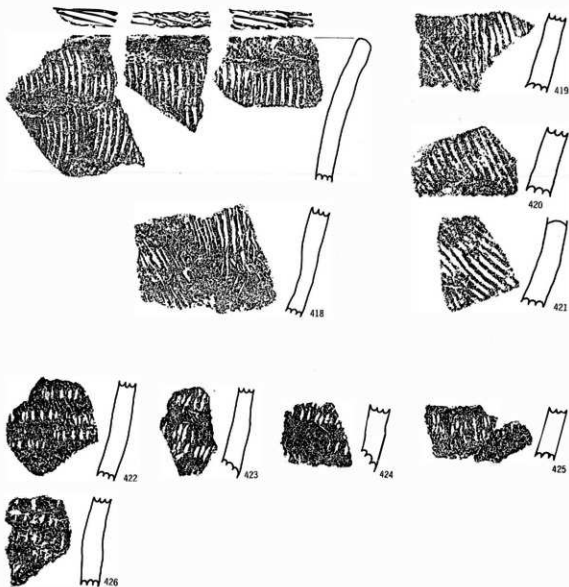
番号	類 種	出土区 部位	文 様	胎 土	色 調(内外)	焼成	備考
401	IV群A類1種	B-6 胴部	条痕文	長、英、砂	赤褐 褐	良好	
402	IV群A類1種	A-4 胴部	条痕文	長、英、砂	赤褐 黒灰褐	良	
403	IV群A類1種	B-1 胴部	条痕文	長、英、砂	黄褐 褐	良好	
404	IV群A類1種	A-2 胴部	条痕文	雲、砂、微織	黄灰褐 暗褐	良好	
405	IV群A類2種	A-4.5 口縁部	条痕文	雲、砂	褐 黒褐	良	波状口縁
406	IV群A類2種	表土 口縁部	口唇 条痕文 胴部 条痕文	多細砂	暗赤褐 暗灰褐	良好	
407	IV群A類2種	表土 胴部	条痕文	長、英、細砂	暗黄褐 橙褐	良	
408	IV群A類2種	A-2 胴部	条痕文	大長、英、砂礫	灰褐 橙褐	良	
409	IV群A類2種	A-3 胴部	条痕文	長、英、砂	黒灰 黄褐	良	タール付着
410	IV群A類2種	A-3 胴部	条痕文	長、英、砂	暗褐 赤褐	良	
411	IV群A類2種	表土 胴部	条痕文	長、英、砂、織	橙褐 暗灰褐	良	
412	IV群B類	A・B-口縁部	口唇 棒状工具連続 押圧 胴部 条痕文	金雲、細砂	橙褐 褐	良好	
413	IV群B類	A-2 口縁部	条痕文	雲、砂礫	橙褐 暗灰褐	不良	
414	IV群B類	A-3 胴部	条痕文	大長、英、砂礫、織	橙～灰褐 暗灰褐	良	
415	IV群B類	A-1 胴部	条痕文	長、英、砂、雲	橙褐 橙褐	良好	
416	IV群C類	A-2 胴部	擬条痕文	大長、英、砂、織	灰褐 褐	良	
417	IV群C類	B-2 胴部	擬条痕文	大長、英、砂、織	黒褐 赤褐	良	

圖-19 第IV群土器拓影圖-1



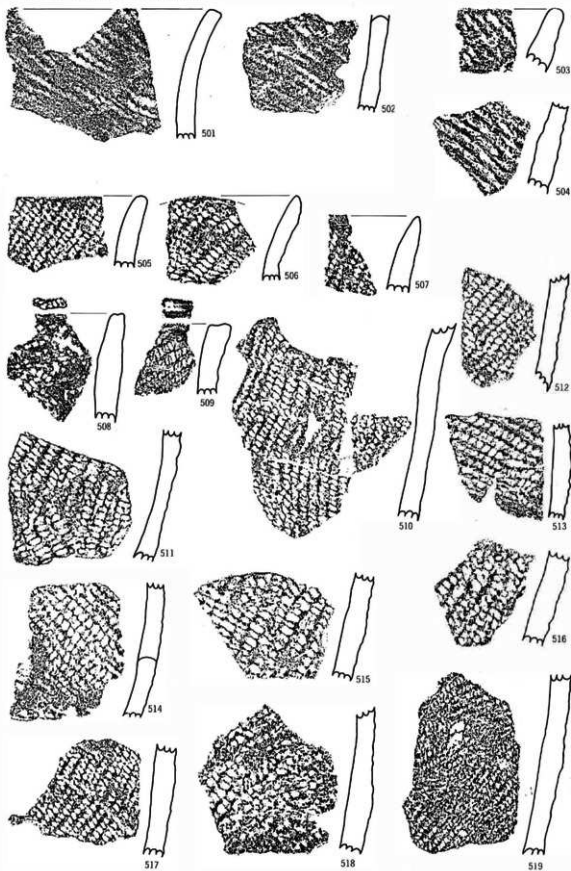
番 号	類 種	出土区 部位	文 様	胎 土	色 調 (内外)	焼成	備考
4 1 8	IV群C類	A-1-2口縁部	口唇 燃糸文 (R) 胴部 擬条痕文	大長、英、砂、織	暗赤褐 暗灰褐	良好	
4 1 9	IV群C類	A-1 胴部	擬条痕文	大長、英、砂、織	赤褐 赤褐	良	
4 2 0	IV群C類	B-3 胴部	擬条痕文	大長、英、砂、織	赤褐 灰褐	良	
4 2 1	IV群C類	B-2 胴部	擬条痕文	大長、英、砂、織	暗赤褐 赤褐	良	
4 2 2	IV群D類	B-1 胴部	絡条体圧痕文	長、英、多砂、微織	暗褐 赤褐	良	
4 2 3	IV群D類	B-2 胴部	絡条体圧痕文	長、英、多砂、微織	暗褐 褐	不良	
4 2 4	IV群D類	B-2 胴部	絡条体圧痕文	長、英、多砂、微織	暗赤褐 暗褐	不良	
4 2 5	IV群D類	B-2 胴部	絡条体圧痕文	長、英、砂、微織	暗褐 褐	良	
4 2 6	IV群D類	A-5 胴部	絡条体圧痕文	長、英、微織	橙褐 褐	不良	

图-20 第IV群土器拓影图-2



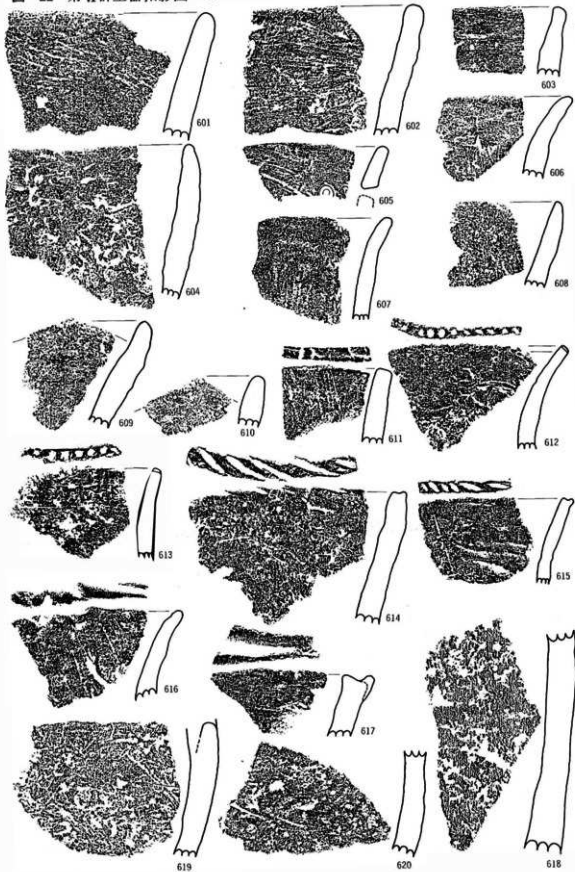
番号	類	種	出土区	部位	文	様	胎	土	色	調(内外)	焼成	備考
501	V群	1種	B-3	口縁部	縄文	(R)	金雲、雲、長、英、砂	褐	暗灰褐	良	501と 同題体	
502	V群	1種	B-3	胴部	縄文	(R)	金雲、雲、長、英、砂	褐	暗灰褐	良		
503	V群	1種	A-3	口縁部	縄文	(R)	長、英	赤褐	褐	良		
504	V群	1種	B-3	胴部	縄文	(L)	長、雲、細砂	灰黄褐	灰褐	不良	波状口縁	
505	V群	2種	B-3	口縁部	縄文	(LR)	金雲、細砂	淡赤褐	褐	良		
506	V群	2種	A-2	口縁部	縄文	(LR)	長、砂礫、微織	灰褐	暗灰褐	良		
507	V群	2種	B-1	口縁部	縄文	(LR)	砂	橙褐	暗褐	良		
508	V群	2種	B-4	口縁部	口唇	縄文(RL)	雲、砂礫、微織	赤褐	黒褐	良		
				胴部	縄文(RL?) 3段燃?							
509	V群	2種	A-6	口縁部	口唇	角棒状工具刺突	長、英、砂	赤褐	暗褐	良		
				胴部	縄文(LR?) 前々段反燃?		長、砂	淡赤褐	黒褐	良		
511	V群	2種	B-1	胴部	縄文	(LR)	金雲、長、英、砂、微織	赤褐	黒褐	良		
512	V群	2種	A-3	胴部	縄文	(LR)	金雲、長、英、砂	暗赤褐	暗褐	良		
513	V群	2種	A-1	胴部	縄文	(RL)	金雲、細砂	赤褐	褐	良		
514	V群	2種	A-2	胴部	縄文	(RL)	金雲、多細砂	暗褐	褐	良		
515	V群	2種	A-2	胴部	縄文	(LR)	金雲、多細砂	灰褐	淡黄褐	良		
516	V群	2種	表土	胴部	縄文	(LR)	大長、英、微織	暗灰褐	黄褐	良		
517	V群	2種	A-1	胴部	縄文	(LR)	大長、英、砂、微織	暗褐	赤褐	良		
518	V群	2種	B-2	胴部	縄文	(LR)	長、英、細砂	赤褐	赤褐	良		
519	V群	2種	A-3	胴部	縄文	(LR)	雲、長、英、細砂	暗褐	赤褐	良		

图-21 第V群土器拓影图



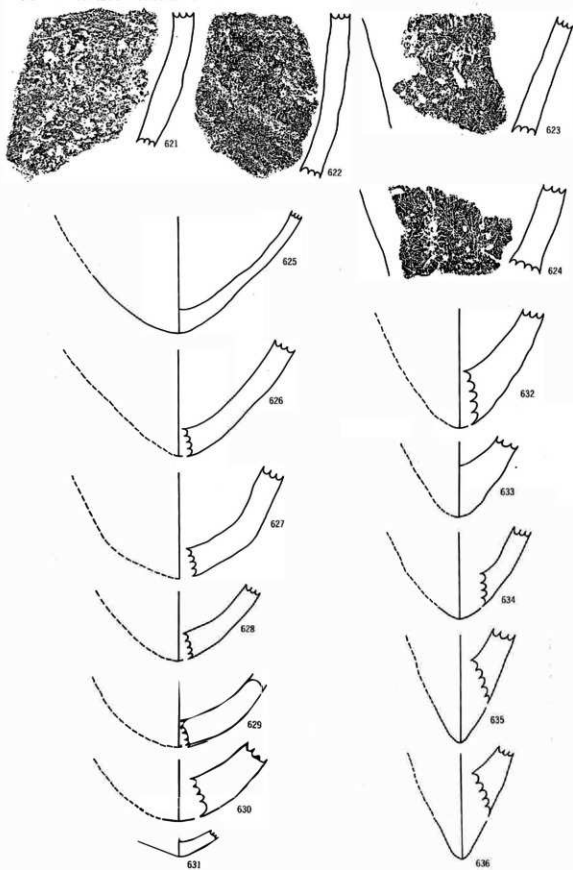
番号	種類	出土区	部位	文様	胎土	色	調(内外)	焼成	備考
601	VI群1種	A-2	口縁部	—————	雲、長、砂	黄褐	暗灰褐	良	
602	VI群1種	B-2	口縁部	—————	長、砂、織	橙褐	暗褐	良	
603	VI群1種	A-1	口縁部	—————	雲、細砂、織	暗褐	暗褐	良	
604	VI群1種	B-6	口縁部	—————	砂礫、多織	赤褐	黄褐	良	
605	VI群1種	A-3	口縁部	—————	大長、英、織	赤褐	褐	良	
606	VI群1種	A-1	口縁部	—————	大長、英、織	橙褐	褐	良	
607	VI群1種	A-2	口縁部	—————	雲、長、英、微織	暗橙褐	黒褐	良	
608	VI群1種	B-1	口縁部	—————	雲、砂礫、少織	暗灰褐	黒灰褐	不良	
609	VI群1種	B-2	口縁部	—————	砂礫、織	褐	黒褐	不良	波状口縁
610	VI群1種	B-2	口縁部	—————	雲、砂、織	赤褐	褐	不良	波状口縁
611	VI群1種	A-2	口縁部	口唇 へら状工具刺突 ————— 胴部	大長、英、砂、織	褐	暗褐	良	
612	VI群1種	B-6	口縁部	口唇 丸棒工具連続押圧 ————— 胴部	長、英、砂、織	黄褐	暗黄褐	良	
613	VI群1種	A-4	口縁部	口唇 丸棒工具連続押圧 ————— 胴部	大長、英、砂、織	暗黄褐	淡黄褐	不良	
614	VI群1種	A-1	口縁部	口唇 丸棒工具連続押圧 ————— 胴部	大長、英、織	赤褐	褐	良	
615	VI群1種	B-4	口縁部	口唇 丸棒工具斜連続押圧 ————— 胴部	大長、英、少織	赤褐	褐	良	
616	VI群1種	A-2	口縁部	口唇~裏面 螺旋状凹線 ————— 胴部	大長、英、砂、織	暗褐	暗褐	良	
617	VI群1種	A-2	口縁部	口唇~裏面 螺旋状凹線 ————— 胴部	大長、英、砂、織	暗黄褐	暗黄褐	良	
618	VI群1種	A-2	胴部	—————	長、英、織	褐	赤褐	良	
619	VI群1種	B-6	胴部	—————	大長、英、織	暗黄褐	橙褐	良	
620	VI群1種	A-2	胴部	—————	大長、英、織	暗灰褐	橙褐	良	

图-22 第Ⅵ群土器拓影图-1



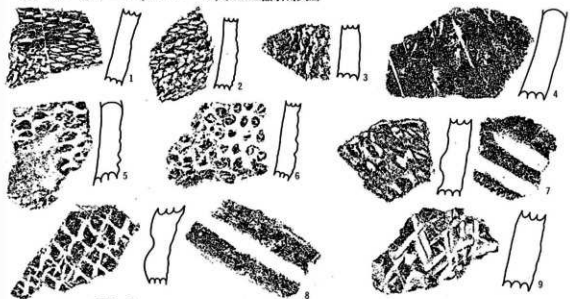
番 号	類 種	出土区 部位	文 様	胎 土	色 調 (内外)	焼 成	備 考
6 2 1	VI群 1種	A-5 胴部	————	大長、莢、織	暗灰褐 橙褐	良	
6 2 2	VI群 1種	A-6 胴部	————	雲、長、莢、砂、少織	暗灰褐 灰褐	良	
6 2 3	VI群 1種	A-1 胴部	————	大長、莢、織	黒褐 橙褐	良	
6 2 4	VI群 1種	A-4 胴部	————	長、莢、砂礫、織	淡黄褐 橙褐	良	
6 2 5	VI群 1種	A-1 底部	————	大長、莢、織	灰褐 黄褐	良	
6 2 6	VI群 1種	A-2 底部	————	大長、莢、織	黄褐 赤褐	良	
6 2 7	VI群 1種	A-1 底部	————	大長、莢、織	黄褐 淡黄褐	不良	
6 2 8	VI群 1種	表土 底部	————	大長、莢、織	淡赤褐 灰褐	良	
6 2 9	VI群 1種	A-3 底部	————	砂礫、少織	赤褐 暗褐	不良	
6 3 0	VI群 1種	A-1 底部	————	大長、莢、織	赤褐 淡赤褐	良	
6 3 1	VI群 1種	表土 底部	————	大長、莢、織	灰褐 淡灰褐	良	
6 3 2	VI群 1種	A-2 底部	————	雲、長、莢、砂、織	黒褐 橙褐	良	
6 3 3	VI群 1種	B-6 底部	————	長、莢、少織	淡橙褐 橙褐	良	
6 3 4	VI群 1種	A-1 底部	————	大長、莢、織	灰褐 黄褐	良	
6 3 5	VI群 1種	B-4 底部	————	金雲、長、莢、細砂、織	黒褐 灰褐	良	
6 3 6	VI群 1種	A-2 底部	————	金雲、長、莢、細砂、少織	黒褐 淡橙褐	不良	

图-23 第VI群土器拓影图-2



番号	類種	出土区	部位	文様	胎土	色調 (内外)	焼成	備考
S T-1								
1	I群A類2種	ST-1	胸部	捺糸文 (R)	雲、英、長	赤褐 暗褐	良好	
2	I群A類2種	ST-1	胸部	捺糸文 (R)	金雲、長、英、砂、 微織	暗褐 赤褐	良	
3	I群A類2種	ST-1	胸部	捺糸文 (R)	金雲、砂	暗褐 灰褐	不良	
4	I群E類	ST-1	胸部	捺糸文 (ℓ)	大長、英、砂、織	黄褐 淡黄褐	良	
5	II群B類	ST-1	胸部	押型文 (楕円)	大長、英、微織	褐 灰褐	良	
6	II群B類	ST-1	胸部	押型文 (楕円)	金雲、細砂	灰褐 褐	良	
7	II群C類	ST-1	胸部	表一押型文 (楕円) 裏一螺旋状凹線	大長、英、微織	灰黄褐 淡橙褐	良	
8	II群D類	ST-1	胸部	表一押型文 (略菱形) 裏一螺旋状凹線	金雲、長、英、微織	黄褐 暗灰褐	良	
9	II群D類	ST-1	胸部	表一押型文 (略菱形) 裏一螺旋状凹線?	大長、英、砂礫、織	黄褐 暗褐	良	
10	III群A類3種	ST-1	胸部	沈線文	砂	赤褐 黄褐	良	
11	III群A類4種	ST-1	胸部	沈線文	細砂	赤褐 淡赤褐	良	
S T-2								
1	I群A類1種	ST-2	胸部	捺糸文 (ℓ)	雲、長、英、砂、少 織	黑褐 赤褐	良	礫
2	I群A類3種	ST-2	胸部	捺糸文 (ℓ)	長、英、砂、織	褐 淡橙褐	良	礫
3	I群B類	ST-2	胸部	捺糸文 (R)	長、英、細砂	灰褐 橙褐	良	礫
4	I群B類	ST-2	胸部	捺糸文 (ℓ)	長、英、砂、織	褐 黄褐	良	礫
5	II群A類	ST-2	胸部	押型文 (楕円)	大長、英、微織	褐 暗黄褐	良	礫
6	II群A類	ST-2	胸部	押型文 (楕円)	大長、英、砂礫、少 織	灰褐 暗灰褐	良	礫
7	II群B類	ST-2	胸部	押型文 (楕円)	大長、英	黄褐 淡橙褐	良	礫
8	II群C類	ST-2	胸部	表一押型文 (楕円) 裏一螺旋状凹線	大長、英、砂、織	橙褐 灰褐	良	礫
9	II群D類	ST-2	胸部	押型文 (略菱形)	大長、英、少織	黄褐 淡橙褐	良	礫
10	III群A類3種	ST-2	胸部	沈線文	長、英、多細砂、微 織	暗褐 赤褐	良好	礫
11	III群B類2種	ST-2	胸部	沈線・刺突文	長、英、細砂、微織	暗灰褐 灰褐	良好	礫
12	III群C類2種	ST-2	胸部	沈線・貝紋文	細砂	赤褐 暗赤褐	良好	礫
13	VI群1種	ST-2	口縁部	—————	雲、細砂、織	暗灰褐 暗褐	良	波状口縁・礫
14	VI群1種	ST-2	胸部	—————	雲、砂礫、微織	黑灰 橙褐	良	礫
15	VI群1種	ST-2	胸部	—————	金雲、長、英、砂、 少織	暗褐 淡橙褐	良	礫

图-24 ST-1、ST-2出土土器拓影图

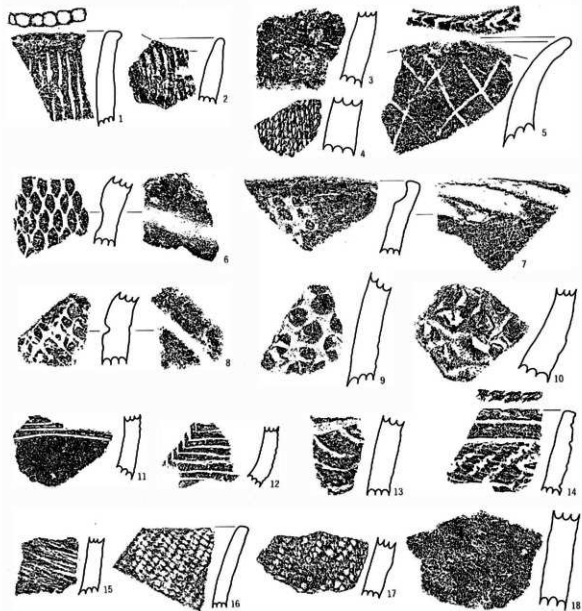


ST-1
ST-2



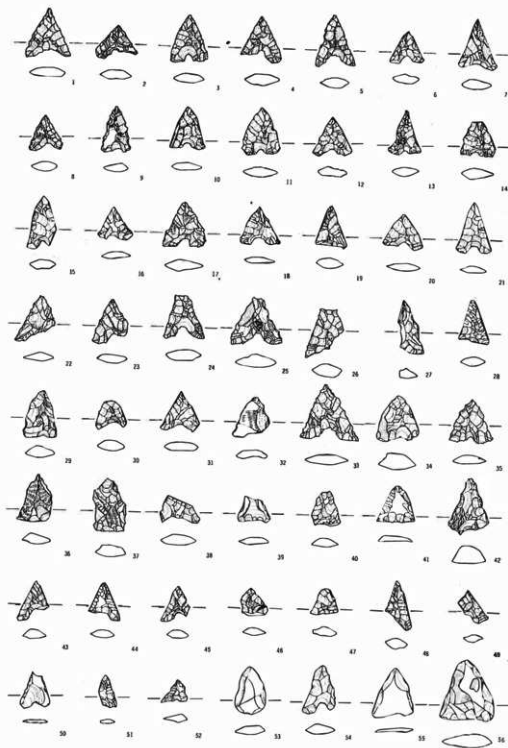
番号	類	種	出土区	部位	文様	胎土	色	調(内外)	焼成	備考
ST-3										
1	I群A類	1種	ST-3	口縁部	口唇 丸棒状工具連続押圧 胴部 摺糸文(L)	大長、英、砂、織	暗赤褐	暗褐	良	
2	I群A類	1種	ST-3	口縁部	摺糸文(R)	砂礫、少織	淡赤褐	褐	不良	波状口縁
3	I群A類	1種	ST-3	胴部	摺糸文(R)	長、英、砂、織	灰褐	橙褐	良	
4	I群A類	2種	ST-3	胴部	摺糸文(L)	大長、英、織	暗赤褐	暗褐	良	
5	I群E類		ST-3	口縁部	口唇爪形状工具連続刺突 胴部 摺糸文(L)	大長、英、織	暗赤褐	暗褐	良	波状口縁
6	II群A類		ST-3	胴部	表一押型文(楕円) 裏一螺旋状凹線	大長、英、砂、織	淡橙褐	暗褐	良	
7	II群B類		ST-3	口縁部	口縁裏螺旋状凹線 胴部 押型文(楕円)	大長、英、織	赤褐	褐	良	
8	II群A類		ST-3	胴部	表一押型文(楕円) 裏一螺旋状凹線	大長、英、砂、織	暗褐	灰褐	良	
9	II群C類		ST-3	胴部	押型文(円形)	大長、英、砂、織	暗褐	褐	良好	
10	II群C類		ST-3	胴部	押型文(円形)	大長、英、砂、織	赤褐	暗褐	良	
11	III群A類	3種	ST-3	胴部	沈線文	長、英、砂、微織	黒褐	黄褐	良	
12	III群A類	3種	ST-3	胴部	沈線文	金雲、細砂、微織	暗灰褐	暗赤褐	不良	
13	III群A類	4種	ST-3	胴部	沈線文	雲、長、英、砂、織	暗黄褐	淡橙褐	不良	
14	III群C類	2種	ST-3	口縁部	口唇 貝紋縁部連続刺突 胴部 沈線・貝紋文	長、英、砂、微織	褐	暗褐	良	
15	IV群B種		ST-3	胴部	条痕文	金雲、細砂	黄褐	暗褐	良	
16	V群2種		ST-3	口縁部	縄文(LR)	多金雲、細砂	暗灰褐	暗灰褐	良好	
17	V群2種		ST-3	胴部	縄文(LR)	砂	暗褐	赤褐	良好	
18	VI群1種		ST-3	胴部	———	雲、砂礫	暗褐	淡赤褐	良	

图-25 ST-3 出土土器拓影图



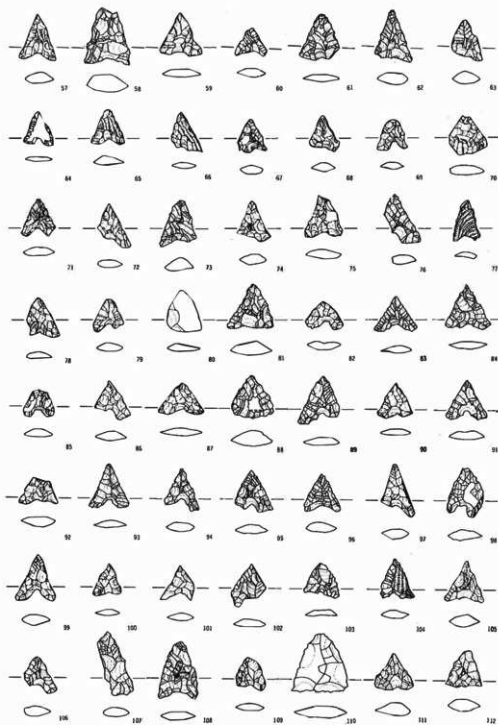
No	分類	出土区	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	備考
1	Ⅱ		黒曜石	18.5	17.25	3.8	0.7	完形	
2	Ⅲ		黒曜石	13.15	(15.9)	3.15	(0.4)	片逆刺欠	
3	Ⅲ		黒曜石	18.3	9.65	3.6	0.7	完形	
4	Ⅲ		黒曜石	18.3	(15.8)	3.85	(0.65)	片逆刺欠	
5	Ⅱ		黒曜石	20.4	15.7	4.35	0.75	完形	
6	Ⅲ		黒曜石	12.1	13.2	3.15	0.25	完形	
7	Ⅱ		黒曜石	19.75	15.55	4.45	0.65	完形	
8	Ⅱ		黒曜石	13.75	13.55	3.85	0.55	完形	
9	Ⅱ		水晶	17.8	11.75	3.3	(0.6)	略完形	
10	Ⅲ		黒曜石	16.65	13.65	2.7	0.45	完形	
11	Ⅲ		黒曜石	18.7	14.6	4.15	(0.65)	略完形	
12	Ⅱ		黒曜石	(15.75)	(15.75)	3.05	(0.45)	両逆刺欠	
13	Ⅲ		黒曜石	(17.75)	(13.1)	4.0	(0.45)	両逆刺欠	
14	Ⅲ		黒曜石	(13.65)	(13.75)	4.55	(0.65)	先端部両逆刺欠	
15	Ⅲ		黒曜石	21.45	(12.05)	4.0	(0.70)	片逆刺欠	
16	Ⅲ		黒曜石	13.1	13.55	2.35	(0.3)	略完形	
17	Ⅲ		黒曜石	17.95	17.55	4.85	0.95	完形	
18	Ⅲ		黒曜石	14.75	10.9	2.45	0.4	完形	
19	一		黒曜石	(17.5)	(12.85)	4.1	(0.55)	両逆刺欠	
20	Ⅲ		黒曜石	14.65	16.0	2.95	(0.45)	略完形	
21	Ⅲ		頁岩	19.95	13.9	3.15	0.55	完形	
22	Ⅲ		水晶	19.85	(13.05)	3.05	(0.6)	片逆刺欠	
23	Ⅲ		黒曜石	17.05	(14.15)	3.3	(0.6)	片逆刺欠	
24	Ⅲ		黒曜石	(17.65)	16.7	4.25	(0.9)	先端部欠	
25	Ⅲ		黒曜石	(18.55)	20.85	5.75	(1.3)	先端部欠	
26	Ⅱ		黒曜石	(19.15)	(17.2)	5.6	(1.15)	先端部片逆刺欠	
27	Ⅱ		黒曜石	(20.0)	11.5	4.2	(0.55)	片逆刺欠	
28	一		黒曜石	(18.65)	(12.45)	3.9	(0.6)	両逆刺欠	
29	Ⅲ		黒曜石	(18.55)	(13.55)	4.9	(1.0)	先端部欠	
30	Ⅱ		黒曜石	(10.85)	(11.5)	4.25	(0.45)	先端部片側刃欠	
31	Ⅱ		黒曜石	(15.3)	(15.85)	3.3	(0.45)	両逆刺欠	
32	一		黒曜石	(17.05)	(9.6)	3.8	(0.6)	両逆刺欠	
33	Ⅲ		黒曜石	22.65	22.05	4.0	1.35	完形	
34	Ⅱ		黒曜石	18.85	17.05	6.8	(1.8)	片逆刺欠	
35	Ⅲ		黒曜石	17.25	17.6	3.55	0.7	完形	
36	I		水晶	(19.35)	(11.85)	4.55	(1.0)	両側刃欠	
37	I		黒曜石	(21.3)	(13.15)	5.45	(1.3)	両側刃欠	
38	Ⅱ		黒曜石	(10.6)	(15.8)	(4.0)	(0.5)	片逆刺残	
39	Ⅱ		黒曜石	(10.85)	(13.0)	2.75	(0.4)	先端部欠	
40	一		黒曜石	(13.8)	(11.6)	3.9	(0.5)	先端部両逆刺欠	
41	I		チャート	14.55	15.0	2.85	(0.55)	略完形	
42	一		黒曜石	(22.3)	(16.45)	6.85	(1.7)	両逆刺欠	
43	Ⅲ		黒曜石	16.75	(11.7)	3.55	(0.45)	片逆刺欠	
44	Ⅲ		黒曜石	14.9	(12.75)	2.85	(0.30)	片逆刺欠	

图-26 石铤实测图-1 (2:3)



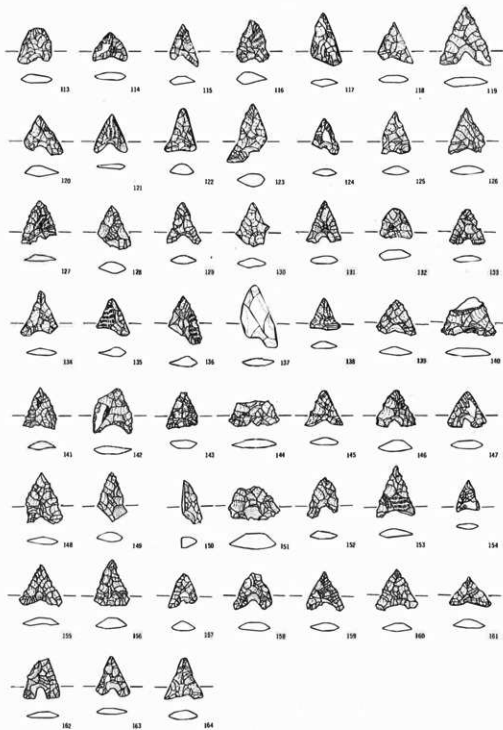
№	分類	出土區	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺 存 狀 態	備 考
45	Ⅲ		黑曜石	14.5	(12.6)	2.95	(0.3)	片逆刺欠	
46	—		黑曜石	(10.6)	(11.6)	3.45	(0.3)	兩逆刺欠	
47	—		黑曜石	(10.1)	(10.85)	3.55	(0.35)	先端部兩逆刺欠	
48	Ⅲ		黑曜石	20.05	(10.5)	3.8	(0.4)	片逆刺欠	
49	Ⅲ		黑曜石	13.5	(9.9)	3.05	(0.3)	片逆刺欠	
50	Ⅲ		黑曜石	(14.4)	(11.7)	(1.75)	(0.2)	先端部片側刃欠	
51	Ⅲ		黑曜石	12.5	(7.25)	2.05	(0.15)	片逆刺欠	
52	—		黑曜石	(8.6)	(10.25)	2.45	(0.15)	兩逆刺欠	
53	I		頁岩	19.4	12.8	4.35	1.2	完 形	
54	Ⅱ		頁岩	19.45	(13.45)	3.95	(0.6)	片逆刺欠	
55	Ⅱ		頁岩	18.9	16.95	2.65	0.75	完 形	
56	I		頁岩	24.55	22.1	5.65	3.1	完 形	
57	Ⅱ	A-4	黑曜石	18.45	14.85	4.15	0.7	完 形	
58	Ⅱ	A-4	黑曜石	(22.75)	(18.35)	7.75	(2.6)	先端部片逆刺欠	
59	Ⅱ	A-2	黑曜石	16.85	17.15	3.65	(0.65)	略完形	
60	Ⅱ	A-2	黑曜石	11.55	(12.9)	3.15	(0.3)	片逆刺欠	
61	—	A-2	黑曜石	(18.05)	(15.9)	3.65	(0.65)	兩逆刺欠	
62	Ⅱ	A-2	黑曜石	20.65	(15.25)	5.25	(1.05)	片逆刺欠	
63	Ⅲ	A-2	黑曜石	16.95	(13.55)	5.35	(0.85)	片逆刺欠	
64	Ⅲ	A-4	黑曜石	13.55	12.2	2.1	0.25	完 形	
65	Ⅱ	A-4	黑曜石	14.0	13.55	3.75	0.4	完 形	
66	Ⅲ	A-4	黑曜石	(16.55)	(11.25)	2.3	(0.3)	兩逆刺欠	
67	—	A-4	黑曜石	13.0	(11.35)	3.95	(0.5)	片逆刺欠	
68	Ⅱ	A-1	黑曜石	(14.25)	(11.55)	3.85	(0.35)	兩逆刺欠	
69	Ⅱ	B-2	黑曜石	(11.7)	(11.35)	3.1	(0.25)	先端部片逆刺欠	
70	—	A-6	黑曜石	(15.6)	(15.35)	4.2	(0.9)	先端部兩逆刺欠	
71	Ⅱ	A-6	黑曜石	14.95	(13.5)	3.65	(0.5)	片逆刺欠	
72	Ⅲ	A-6	黑曜石	18.55	(12.5)	3.0	(0.35)	片逆刺欠	
73	Ⅲ	A-2	黑曜石	19.2	(14.4)	5.9	(1.1)	片逆刺欠	
74	—	A-2	黑曜石	(15.8)	(13.45)	4.1	(0.5)	兩逆刺欠	
75	Ⅱ	A-2	黑曜石	(16.25)	14.7	3.65	(0.65)	先端部欠	
76	Ⅲ	A-2	黑曜石	19.4	12.1	3.75	(0.65)	片逆刺欠	
77	Ⅱ	A-2	黑曜石	16.15	11.0	2.45	(0.35)	略完形	
78	Ⅱ	A-2	黑曜石	12.0	(13.2)	2.5	(0.4)	片逆刺欠	
79	Ⅱ	A-2	黑曜石	(13.0)	(11.85)	3.3	(0.35)	先端部片逆刺欠	
80	I	A-2	頁岩	16.75	13.65	2.95	(0.6)	略完形	
81	Ⅱ	B-2	黑曜石	18.05	18.3	5.65	1.4	完 形	
82	Ⅲ	B-2	黑曜石	11.35	15.0	3.35	(0.4)	略完形	
83	Ⅱ	B-2	黑曜石	14.35	17.65	3.05	0.4	完 形	
84	Ⅱ	B-2	黑曜石	12.25	18.8	3.0	0.6	完 形	
85	Ⅲ	B-2	黑曜石	(10.25)	12.2	3.2	(0.3)	先端部欠	
86	Ⅲ	B-2	黑曜石	15.55	(14.3)	3.7	(0.45)	片逆刺欠	
87	Ⅱ	A-1	黑曜石	12.45	17.7	3.2	0.4	完 形	
88	I	A-1	黑曜石	17.5	17.2	7.15	1.6	完 形	

图-27 石鏃实测图-2 (2:3)



No	分類	出土区	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺 存 状 態 備 考
89	Ⅲ	A-1	黒曜石	20.3	(16.75)	3.05	(0.6)	片逆刺欠
90	Ⅱ	A-1	黒曜石	13.8	14.15	2.65	(0.3)	略完形
91	Ⅲ	A-1	黒曜石	15.75	16.3	3.45	0.55	完 形
92	Ⅱ	A-1	黒曜石	(10.9)	(15.75)	4.1	(0.45)	先端部片逆刺欠
93	Ⅲ	A-1	黒曜石	17.45	16.25	2.95	0.45	完 形
94	Ⅲ	A-1	黒曜石	16.6	14.0	3.55	0.4	完 形
95	Ⅲ	A-1	黒曜石	16.8	(15.3)	3.6	(0.55)	片逆刺欠
96	Ⅱ	A-1	黒曜石	15.3	14.2	4.5	0.45	完形
97	Ⅲ	A-1	黒曜石	22.1	(12.4)	4.0	(0.55)	片逆刺欠
98	Ⅲ	A-1	黒曜石	19.7	14.05	3.75	(0.75)	略完形
99	Ⅲ	A-1	黒曜石	18.7	15.3	4.0	0.6	完 形
100	Ⅱ	A-1	黒曜石	12.1	11.0	2.45	(0.25)	略完形
101	Ⅱ	A-1	黒曜石	13.6	(14.15)	3.0	(0.35)	片逆刺欠
102	-	A-1	黒曜石	(17.05)	(14.1)	3.5	(0.5)	両逆刺欠
103	Ⅲ	A-1	黒曜石	(12.7)	(13.75)	3.0	(0.45)	両逆刺欠
104	Ⅲ	A-3	黒曜石	(15.55)	(13.85)	3.35	(0.4)	両逆刺欠
105	Ⅱ	A-3	水 晶	16.15	15.75	4.6	0.65	完 形
106	Ⅲ	A-3	黒曜石	15.0	(13.35)	3.75	(0.5)	片逆刺欠
107	Ⅲ	A-3	黒曜石	25.9	(15.1)	(4.5)	(1.1)	片側辺欠
108	Ⅱ	A-3	黒曜石	22.95	15.75	4.35	1.2	完 形
109	Ⅱ	A-3	黒曜石	13.6	(12.15)	2.5	(0.3)	片逆刺欠
110	I	A-3	頁 岩	23.5	21.8	5.15	2.4	完 形
111	Ⅱ	A-5	黒曜石	14.2	(15.4)	5.4	(0.8)	片逆刺欠
112	-	A-5	黒曜石	(15.2)	(15.6)	5.1	(1.0)	先端部両逆刺欠
113	Ⅱ	A-5	黒曜石	(14.45)	(14.65)	3.05	(0.5)	先端部片逆刺欠
114	Ⅱ	A-5	黒曜石	11.15	13.55	2.65	0.3	完 形
115	Ⅱ	A-5	黒曜石	17.75	(11.35)	3.4	(0.35)	片逆刺欠
116	Ⅱ	B-1	黒曜石	16.4	12.5	5.15	(0.7)	略完形
117	Ⅱ	B-1	黒曜石	20.65	(12.15)	2.9	(0.5)	片逆刺欠
118	-	B-1	黒曜石	(17.25)	(13.35)	3.15	(0.4)	両逆刺欠
119	Ⅲ	A-5	チャート	23.0	20.44	3.6	1.25	完 形
120	Ⅲ	A-4	黒曜石	16.7	(15.15)	4.1	(0.55)	片逆刺欠
121	Ⅱ	A-4	黒曜石	15.0	12.7	1.75	0.25	完 形
122	Ⅱ	A-4	黒曜石	17.3	(12.6)	4.3	(0.6)	片逆刺欠
123	Ⅲ	B-4	チャート	23.55	(15.0)	4.8	(1.1)	片逆刺欠
124	Ⅲ	B-4	黒曜石	14.4	(11.15)	2.2	(0.25)	片逆刺欠
125	Ⅲ	B-4	黒曜石	16.8	(11.7)	3.1	(0.4)	片逆刺欠
126	Ⅱ	A-2	黒曜石	18.0	(14.8)	4.05	(0.7)	片逆刺欠
127	Ⅲ	A-2	黒曜石	16.8	(13.65)	2.5	(0.45)	片逆刺欠
128	Ⅲ	A-2	黒曜石	16.45	(13.0)	4.35	(0.65)	片逆刺欠
129	Ⅱ	A-2	黒曜石	16.4	13.4	3.45	0.4	完 形
130	-	A-2	黒曜石	(17.25)	(12.5)	3.8	(0.55)	両逆刺欠
131	Ⅲ	A-3	黒曜石	16.25	13.85	3.2	0.4	完 形
132	I	A-3	黒曜石	13.1	12.25	4.3	0.55	完 形

图-28 石鏃实测图-3 (2:3)

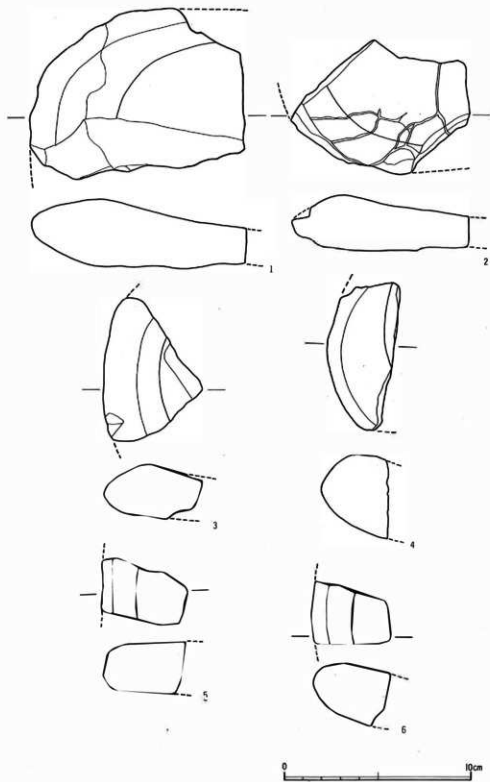


No	分類	出土区	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺 存 状 態	備 考
133	Ⅲ	A-3	黑曜石	14.0	14.05	2.5	0.35	完 形	
134	Ⅱ	A-2	黑曜石	17.35	(14.85)	2.5	(0.35)	片逆刺欠	
135	Ⅱ	A-2	黑曜石	14.85	(13.1)	3.4	(0.35)	片逆刺欠	
136	Ⅲ	A-5	黑曜石	19.65	(13.75)	4.15	(0.55)	片逆刺欠	
137	Ⅱ	A-3	頁 岩	25.0	(12.2)	3.15	(0.85)	片逆刺欠	
138	—	A-2	黑曜石	(12.8)	(11.35)	3.1	(0.3)	兩逆刺欠	
139	Ⅱ	A-2	黑曜石	13.6	(15.25)	3.4	(0.45)	片逆刺欠	
140	Ⅱ	A-1	黑曜石	(15.15)	22.0	5.6	(1.2)	先端部欠	
141	Ⅱ	A-1	黑曜石	16.15	13.4	3.1	0.45	完 形	
142	Ⅱ	A-1	黑曜石	(18.0)	15.85	3.4	(0.85)	先端部欠	
143	I	A-6	黑曜石	14.0	(12.95)	3.6	(0.5)	片逆刺欠	
144	Ⅲ	A-6	黑曜石	(10.25)	18.95	3.6	(0.55)	先端部欠	
145	Ⅱ	A-3	黑曜石	13.8	14.35	2.95	0.35	完 形	
146	Ⅲ	A-4	黑曜石	14.65	15.55	4.35	(0.65)	略完形	
147	Ⅲ	A-4	黑曜石	15.15	15.25	3.35	(0.5)	略完形	
148	Ⅱ	A-4	黑曜石	20.15	(14.25)	3.1	(0.7)	片逆刺欠	
149	—	A-4	黑曜石	(19.7)	11.6	4.1	(0.7)	兩逆刺欠	
150	Ⅲ	A-4	黑曜石	17.2	(7.25)	3.8	(0.35)	片側辺欠	
151	I	B-6	黑曜石	(15.7)	(19.7)	6.13	(1.7)	先端部欠	
152	Ⅲ	B-6	黑曜石	16.35	12.5	3.2	(0.4)	略完形	
153	Ⅱ	B-6	黑曜石	(20.25)	15.35	3.25	(0.65)	兩逆刺欠	
154	Ⅱ	A-6	黑曜石	(12.1)	(9.45)	2.05	(0.2)	兩逆刺欠	
155	Ⅱ	B-3	黑曜石	16.2	12.2	3.25	0.5	完 形	
156	I	B-1	黑曜石	18.75	13.75	4.9	0.8	完 形	
157	Ⅲ	A-1	黑曜石	14.75	(11.65)	3.65	(0.35)	片逆刺欠	
158	Ⅱ	B-3	黑曜石	(14.2)	(14.85)	3.3	(0.55)	先端部片逆刺欠	
159	Ⅱ	B-3	黑曜石	15.4	15.0	3.3	(0.45)	略完形	
160	Ⅲ	B-3	黑曜石	16.25	16.6	3.05	0.5	完 形	
161	Ⅱ	A-2	黑曜石	11.55	16.75	3.35	0.4	完 形	
162	Ⅲ	A-5	頁 岩	(15.95)	14.6	2.65	(0.5)	先端部欠	
163	Ⅲ	A-1	黑曜石	15.65	(13.45)	3.1	(0.4)	片逆刺欠	
164	Ⅱ	確認調	黑曜石	(16.35)	15.25	3.35	(0.45)	先端部欠	

石 皿

No	分類	出土区	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺 存 状 態	備 考
1	—	A-1	砂 岩	(239.3)	(164.5)	(50.4)	(2984)	1/3 存	
2	—	B-2	砂 岩	(187.4)	(131.7)	(56.1)	(1502)	1/5 存	
3	—	B-1	砂 岩	(154.6)	(99.8)	(45.3)	(731)	細片	
4	—	ST-3	砂 岩	(155.6)	(59.3)	(80.3)	(1006)	細片	
5	—	A-1	砂 岩	(90.4)	(56.6)	(52.4)	(465)	細片	平坦磨面?
6	—	A-4	砂 岩	(77.1)	(68.2)	(60.2)	(453)	細片	

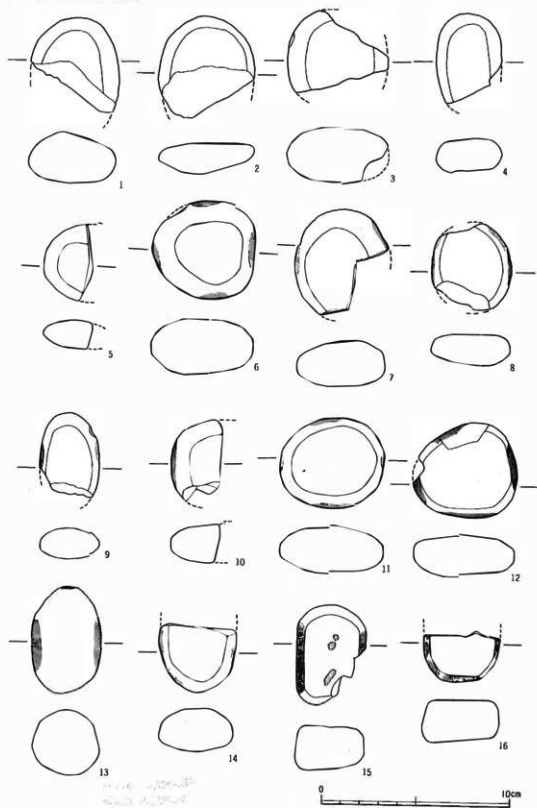
图-29 石皿实测图



磨石

No	分類	出土区	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	遺 存 状 態	備 考
1	I	A-5	砂 岩	(89.0)	(101.4)	58.35	(525)	1/2 存	
2	I	A-2	砂 岩	(104.0)	102.55	33.0	360	2/3 存	
3	I	A-2	花崗岩	(78.5)	(106.75)	55.6	(533)	1/3 存	
4	I	A-2	凝灰岩	(92.45)	67.8	33.2	(310)	3/4 存	
5	I	A-4	安山岩	(82.4)	(52.9)	28.6	(145)	1/3 存	
6	I	B-3	凝灰岩	113.4	105.15	58.15	(960)	略完形	
7	I	褐色上	砂 岩	(110.55)	(90.8)	46.3	(550)	3/4 存	
8	I	A-2	砂 岩	(90.75)	83.7	30.15	(280)	3/4 存	
9	I	B-3	花崗岩	(85.7)	63.45	31.25	(230)	3/4 存	
10	I	B-1	花崗岩	(51.95)	(93.2)	40.1	(235)	1/3 存	
11	II	A-3	安山岩	110.8	95.0	42.5	675	完 形	
12	II	B-3	砂 岩	110.0	101.7	43.3	(610)	略完形	
13	II	褐色上	安山岩	112.25	74.25	61.95	769	完 形	
14	II	B-1	砂 岩	(81.95)	(71.1)	44.2	(340)	1/2 存	
15	II	B-2	砂 岩	(109.1)	(74.6)	45.10	(470)	3/4 存	
16	II	A-5	安山岩	(82.7)	(58.8)	43.35	(270)	1/2 存	
17	II	A-2	砂 岩	(76.05)	(90.1)	37.45	(298)	1/2 存	
18	II	褐色上	砂 岩	105.0	59.1	35.8	(355)	4/5 存	
19	II	A-5	砂 岩	(64.3)	(59.9)	58.6	(300)	1/2 存	
20	II	確認調査	砂 岩	(71.6)	(63.15)	(43.1)	(245)	1/2 存	
21	II	A-3	安山岩	(77.45)	64.35	41.0	(310)	1/2 存	
22	II	B-1	安山岩	(82.7)	70.55	52.05	(444)	1/3 存	
23	II	A-1	砂 岩	(61.75)	65.55	55.9	(255)	1/2 存	
24	II	A-2	砂 岩	(147.45)	60.25	56.2	(690)	2/3 存	

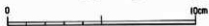
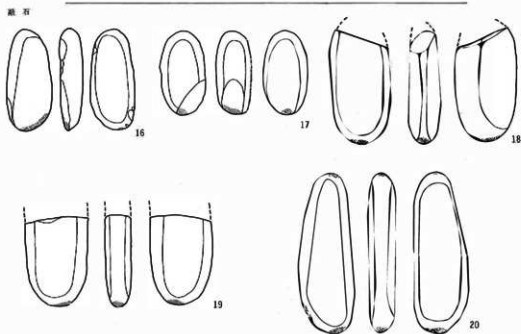
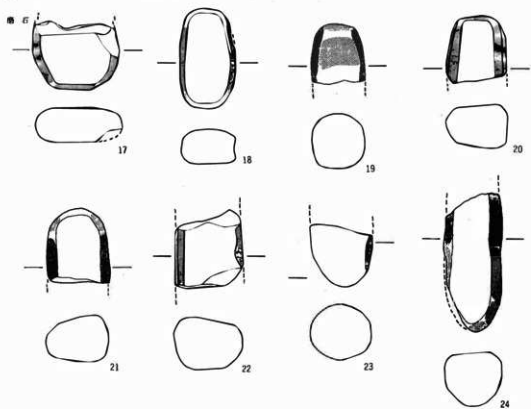
图-30 磨石实测图



鼓石

No	分類	出土区	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	備考
1	I	B-1	砂岩	(61.9)	72.45	30.25	(220)	1/2 存	
2	I	A-2	安山岩	(78.0)	71.4	18.85	(130)	3/4 存	
3	I	褐色上	砂岩	114.6	90.75	42.6	(643)	略完形	
4	I	A-2	砂岩	47.1	28.8	23.35	(35.7)	略完形	
5	I	褐色上	砂岩	107.7	45.3	(19.9)	(104.2)	4/5 存	
6	I	A-2	砂岩	64.05	37.7	22.8	(83)	略完形	
7	II	A-3	砂岩	96.75	30.2	21.95	(110)	略完形	
8	II	A-4	砂岩	(57.5)	20.65	19.35	(40)	1/2 存	
9	II	B-4	砂岩	77.9	37.2	(26.3)	(81)	2/3 存	
10	II	確認調査	砂岩	76.4	28.1	19.3	(62)	略完形	
11	II	B-3	砂岩	111.5	55.9	33.05	(290)	接合完形	
12	II	A-2	砂岩	96.95	52.2	41.5	292	完形	
13	II	A-2	砂岩	118.25	46.35	30.5	(233)	接合完形	
14	II	A-1	安山岩	(88.3)	45.9	45.9	(261)	4/5 存	
15	II	褐色上	砂岩	(91.8)	46.35	36.85	(176)	2/3 存	
16	II	A-4	硬砂岩	106.35	(46.1)	(22.8)	(147)	2/3 存	
17	II	A-3	砂岩	(88.05)	46.8	36.35	(209)	4/5 存	
18	II	B-3	砂岩	(121.45)	65.1	31.75	(364)	4/5 存	
19	II	B-3	安山岩	(91.6)	64.75	26.85	(248)	2/3 存	
20	II	B-3	砂岩	169.8	58.25	26.8	370	接合完形	

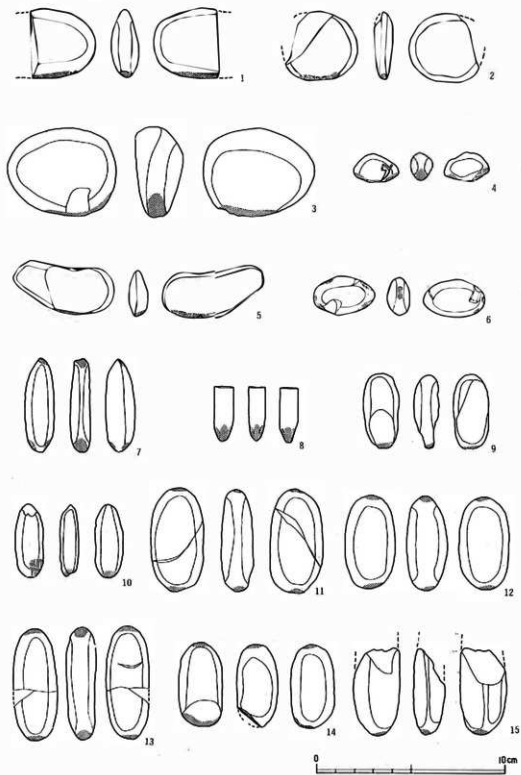
图-31 磨石·敲石实测图



敲石

No	分類	出土区	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺 存 状 態	備 考
1	I	B-1	砂 岩 (69.1)	72.45	30.25	(220)	1/2 存		
2	I	A-2	安山岩 (78.0)	71.4	18.85	(130)	3/4 存		
3	I	褐色上	砂 岩 114.6	90.75	42.6	(643)	略完形		
4	I	A-2	砂 岩 47.1	28.8	23.35	(35.7)	略完形		
5	I	褐色上	砂 岩 107.7	45.3	(19.9)	(104.2)	4/5 存		
6	I	A-2	砂 岩 64.05	37.7	22.8	(83)	略完形		
7	II	A-3	砂 岩 98.75	30.2	21.95	(110)	略完形		
8	II	A-4	砂 岩 (57.5)	20.65	19.35	(40)	1/2 存		
9	II	B-4	砂 岩 77.9	37.2	(26.3)	(81)	2/3 存		
10	III	確認調査	砂 岩 76.4	28.1	19.3	(62)	略完形		
11	III	B-3	砂 岩 111.5	55.9	33.05	(290)	接合完形		
12	III	A-2	砂 岩 98.95	52.2	41.5	292	完 形		
13	III	A-2	砂 岩 118.25	46.35	30.5	(233)	接合完形		
14	III	A-1	安山岩 (88.3)	45.9	45.9	(261)	4/5 存		
15	III	褐色上	砂 岩 (91.8)	46.35	35.85	(176)	2/3 存		

图-32 敲石实测图



石 弁

No	分 類	出土区	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺 存 状 態	備 考
1	——	表 土	硬砂岩	82.7	63.1	23.95	108	完 形	
2	——	褐色上	頁 岩	56.35	36.8	9.15	26	完 形	
3	——	褐色上	頁 岩	43.3	32.65	8.6	12	完 形	

石 匙

No	分 類	出土区	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺 存 状 態	備 考
1	——	褐色上	頁 岩	(40.8)	31.85	5.55	(7.3)	刃部1/3欠	
2	——	確認調査	頁 岩	35.45	32.45	8.9	8.5	完 形	
3	——	A-6	砂 岩	88.9	56.5	18.9	73.5	完 形	
4	——	A-2	砂 岩	86.1	56.4	24.95	79.5	完 形	

スクレイパー類

No	分 類	出土区	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺 存 状 態	備 考
1	——	A-1	硬砂岩	(38.4)	17.7	6.75	(5.5)	2/3 存	
2	——	A-1	黒曜石	37.4	25.1	7.05	5.1	完 形	
3	——	B-2	黒曜石	30.05	17.5	5.8	2.8	完 形	
4	——	A-4	硬砂岩	40.4	33.55	9.15	10.5	完 形	
5	——	褐色上	頁 岩	79.1	54.2	7.8	38	完 形	
6	——	A-2	砂 岩	112.5	63.6	12.0	108.5	完 形	

石 錐

No	分 類	出土区	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺 存 状 態	備 考
1	——	A-1	黒曜石	23.8	16.55	5.5	1.9	完 形	
2	——	B-4	黒曜石	23.2	16.6	5.1	1.4	完 形	

残 核

No	分 類	出土区	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺 存 状 態	備 考
1	——	A-3	頁 岩	90.8	68.55	39.8	391		
2	——	褐色下	硬砂岩	116.7	66.9	51.8	492		
3	——	A-4	頁 岩	97.5	69.3	31.35	221		
4	——	褐色上	頁 岩	88.8	53.3	32.6	216		
5	——	A-1	硬砂岩	98.25	51.0	42.3	203		
6	——	褐色上	頁 岩	86.8	56.3	26.55	179		

図-33 その他の石器実測図

石斧



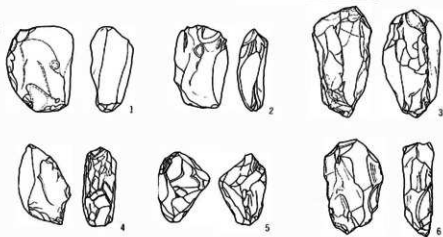
石鋸



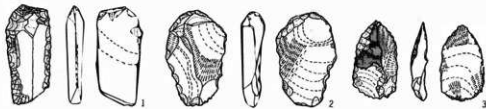
スクレイパー類



石槌



スクレイパー類

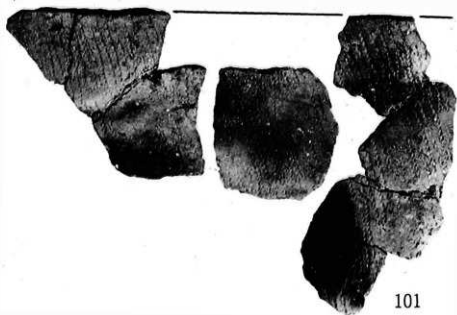
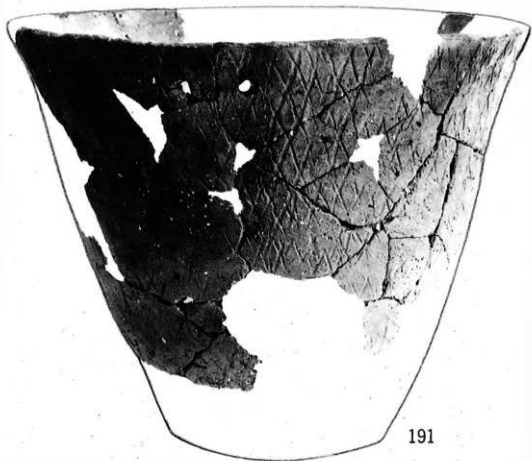


石鏃

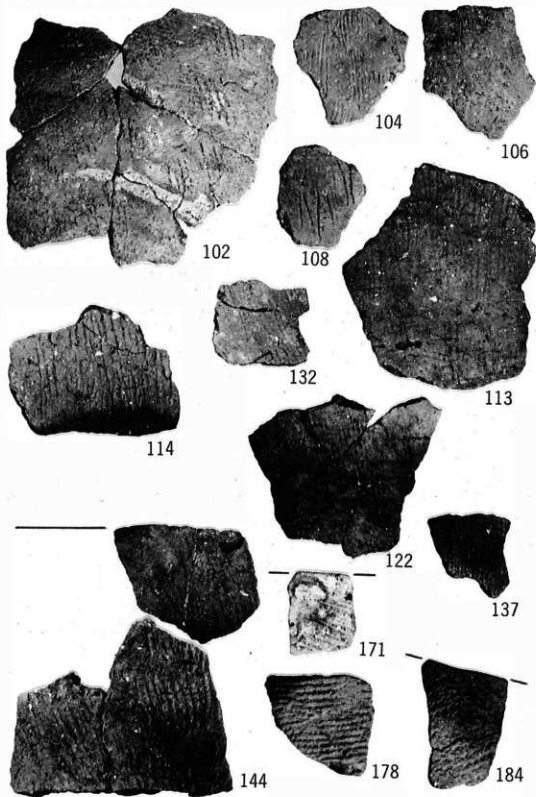


図版-1 調査概要

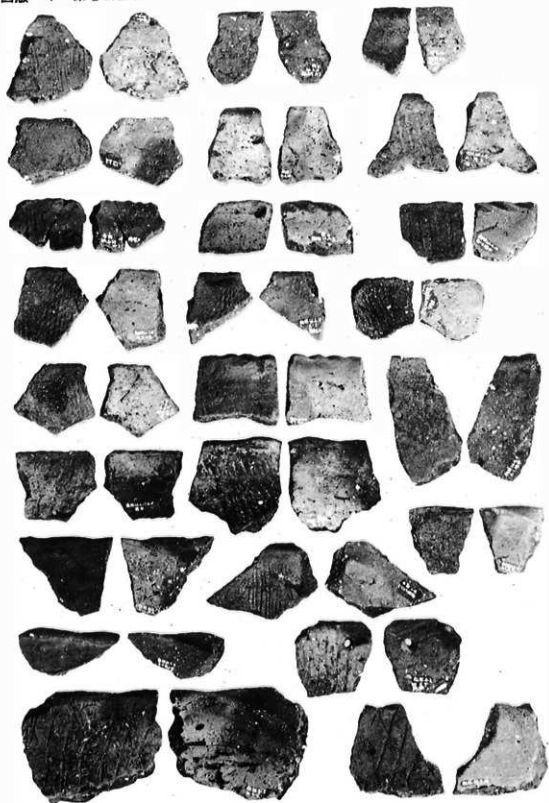




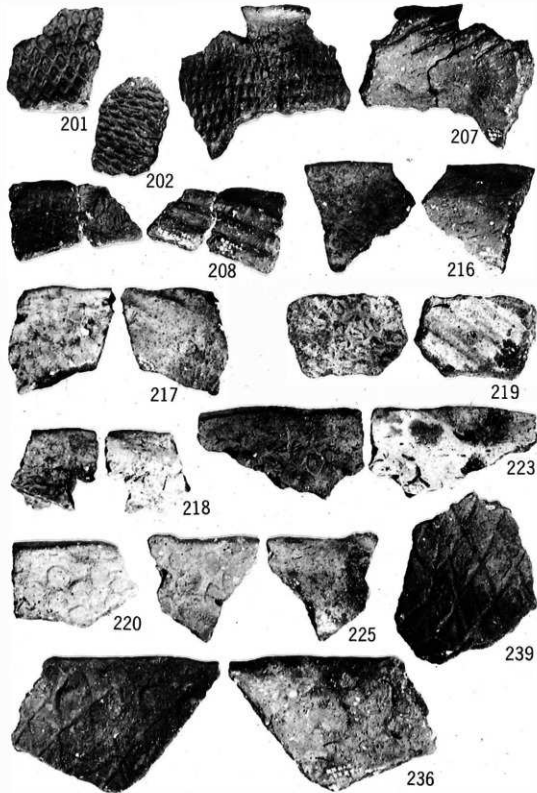
图版-3 第I群土器



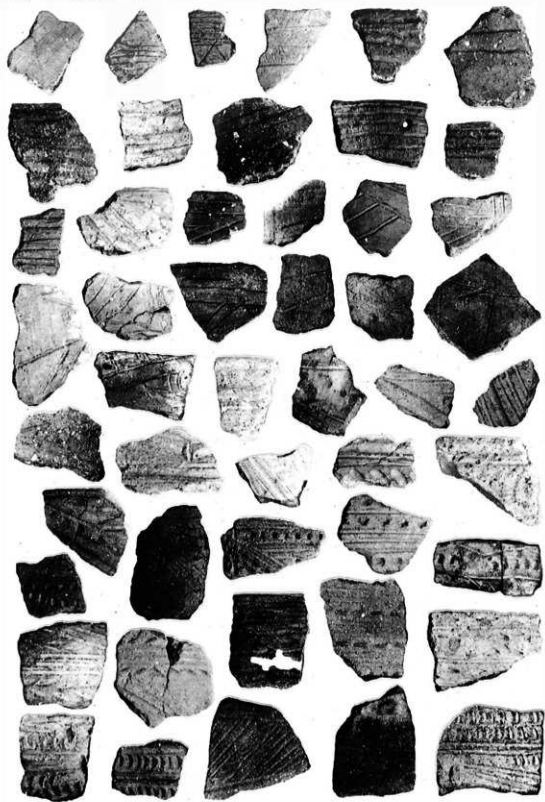
图版-4 第I群土器 (149~170·196·195)



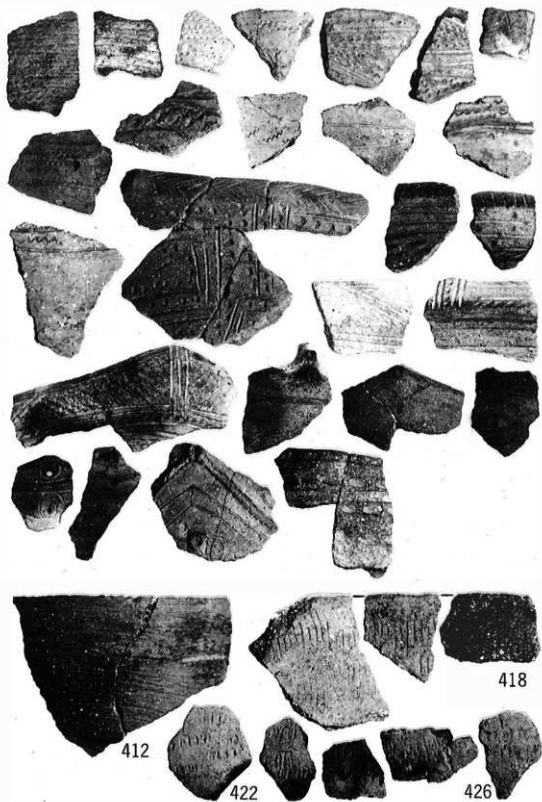
圖版—5 第Ⅱ群土器



图版—6 第三群土器 (301~349)



图版-7 第三群土器 (350~375) · 第四群土器



富士宮市文化財調査報告書第9集

黒田向林遺跡

昭和61年3月31日

編集 富士宮市教育委員会
発行 富士宮市教育委員会
〒418 富士宮市元城町1番1号
(0544)27-3111(代)
印刷 富士宮市矢立町705
株式会社 緑屋社